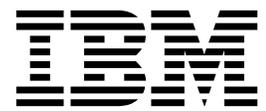


バージョン 10 リリース 0
2016 年 6 月 15 日

IBM Marketing Operations and Campaign 統合ガイド

The IBM logo is displayed in its classic, bold, black, sans-serif font, consisting of the letters 'I', 'B', and 'M' stacked vertically.

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、73 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Operations および Campaign バージョン 10、リリース 0、モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Version 10 Release 0

June 15, 2016

IBM Marketing Operations and
Campaign Integration Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2002, 2016.

目次

第 1 章 統合の概要	1	ステップ 2: レポート・フォルダーを Cognos Connection にインポートする	31
IBM Campaign との統合	1	ステップ 3: レポート内の内部リンクを有効にする	32
IBM Marketing Operations と IBM Campaign との間でのデータ転送の概要	2	ステップ 4: データ・ソース名を検証して公開する	33
統合された IBM Campaign とスタンドアロン IBM Campaign の相違点	3	ステップ 5: IBM Cognos アプリケーションのファイアウォールを構成する	34
統合された IBM Marketing Operations とスタンドアロン IBM Marketing Operations の相違点	4	ステップ 6: アプリケーション・データベース用に IBM Cognos データ・ソースを作成する	34
IBM Marketing Operations および IBM Campaign の統合のライセンスおよび権限の問題	5	第 3 章 統合環境でのキャンペーンの作成 37	
統合を無効にして再度有効にする	5	統合システムでのキャンペーン・プロジェクト	38
Marketing Operations と Campaign の統合	6	プロジェクト・コードおよびキャンペーン・コード	38
統合された配置のプロパティ設定の構成	7	プロジェクトの作成	38
リンクされたレガシー・キャンペーンから Marketing Operations プロジェクトへのナビゲート	9	プロジェクトの開始	40
Marketing Operations の資料とヘルプ	10	「キャンペーン・サマリー」セクション	40
第 2 章 キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの設計	13	要求の作成	41
キャンペーン・プロジェクト・テンプレート、フォーム、および属性の設計	13	複数のプロジェクトまたは要求のステータスの変更	43
ターゲット・セル・スプレッドシートおよびその他のフォーム	13	IBM Campaign オブジェクト名の中の特殊文字	43
オファー・テンプレートの設計	16	リンクされたキャンペーンの作成	44
属性の設計	18	リンクされたキャンペーンの更新	44
共有属性を作成して有効にする	22	ターゲット・セル・スプレッドシート	45
ターゲット・セル・スプレッドシートの作成	22	編集モードのグリッド	46
Marketing Operations での IBM Campaign のコンタクトとレスポンスのデータの共有	23	グリッド行の追加	47
IBM Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップする	24	グリッド行の編集	48
メトリック・データ・マッピング・ファイル	25	グリッド行の削除	48
データ・マッピング・ファイルの追加	25	TCS の公開	49
データ・マッピング・ファイルの編集	26	IBM Campaign のキャンペーンへのアクセス	50
データ・マッピングの定義	26	TCS でセル・ステータス・データを更新	50
キャンペーン・プロジェクト・テンプレート	27	フローチャートの管理	51
キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの作成	27	フローチャートの作成	51
Campaign と通信するためのプロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブ	28	フローチャートのテスト実行	53
Marketing Operations から Campaign への情報の自動的なコピー	29	TCS 承認	54
「Marketing Operations and Campaign 統合」レポート・パッケージ	30	個別の TCS 行の承認	55
統合レポート・パッケージのインストール前提条件	30	TCS のすべての行の承認	55
ステップ 1: IBM Cognos システムでインストーラーを実行する	31	すべての TCS 行に対する承認の拒否	55
		フローチャートのテストと実行	56
		フローチャートの実稼働実行	56
		キャンペーンからのメトリックのインポート	57
		統合レポート	58
		第 4 章 統合システムでのオファーおよびオファー・テンプレート	59
		オファー・ワークフロー機能	59
		IBM Digital Recommendations との統合およびオファー・テンプレート (オプション)	60
		Marketing Operations でのオファー統合の有効化	60
		Campaign からオファーをインポート	61

統合システムでのオファーの作成	64
オファー統合の有効化時にオファー・テンプレート およびオファー属性を管理	65
オファー統合の有効化時にオファーを管理	66
オファー統合の有効時にオファーおよびオファー・ リストをセルに割り当てる	68
リアルタイム・パーソナライゼーションのための非 表示ルールの定義	69

IBM 技術サポートに連絡する前に	71
------------------------------------	-----------

特記事項	73
-----------------------	-----------

商標	75
--------------	----

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考 慮事項	75
------------------------------------------	----

第 1 章 統合の概要

キャンペーンを作成、計画、および承認するための Marketing Operations のマーケティング・リソース管理機能を使用する IBM® Marketing Operations および Campaign。

統合後は、Campaign 内で使用するためにキャンペーン、プロジェクト、オファー、およびターゲット・セル・スプレッドシートを Marketing Operations で管理することができます。Campaign 内でフローチャートを作成および実行することができます。統合により、両方の製品でセル情報を入力する必要がなくなります。

IBM Campaign との統合

Campaign は、Marketing Operations と統合して、そのマーケティング・リソース管理機能を使用してキャンペーンを作成、計画、および承認することができます。

Campaign を Marketing Operations に統合すると、スタンドアロン Campaign 環境で以前に実行されたタスクの多くが、Marketing Operations で実行されます。これらの製品が統合されると、以下に示す Campaign のタスクを Marketing Operations で行うこととなります。

- キャンペーンの作業
 - キャンペーンを作成
 - キャンペーンを表示
 - キャンペーンを削除
 - キャンペーン・サマリーの詳細の作業
- ターゲット・セル・スプレッドシートの作業
- オファーのセルへの割り当て
- コントロール・セルの指定
- カスタム・キャンペーン属性の作成およびデータの設定
- カスタム・セル属性の作成およびデータの設定

以下のタスクは、Campaign のスタンドアロン環境および統合環境の両方で実行されます。

- フローチャートの作成
- フローチャートの実行
- キャンペーン/オファー/セルの詳細分析
- キャンペーン・パフォーマンスの (インストールされているレポート・パックに応じた) レポート作成

オファーの統合も有効になっている場合、以下のタスクを Marketing Operations で実行します。

- オファーの設計
 - オファー属性の定義

- オファー・テンプレートの作成
- オファーの作成、承認、公開、編集、および回収
- オファー・リストおよびオファー・フォルダーへのオファーの編成

オファー統合の有効化について詳しくは、『統合システムでのオファーおよびオファー・テンプレートの管理』の章を参照してください。オファーについては、管理者およびユーザーを対象とした Campaign ガイドを参照してください。

IBM Marketing Operations と IBM Campaign との間でのデータ転送の概要

データ転送の 3 つの主要エリアは、キャンペーン・データ、セル・データ (TCS 内)、およびオファー・データです。製品間でのデータの転送は、基本的に Marketing Operations から Campaign への片方向です。

統合が有効になっている場合、Marketing Operations 内のキャンペーン・プロジェクトの名前およびコードは、Campaign 内のキャンペーンの名前およびコードと同じになります。Marketing Operations 内のキャンペーン・プロジェクトは、Campaign 内の対応するキャンペーンに自動的にリンクされます。

統合により、データ・エントリーを複製する必要がなくなります。Marketing Operations には、すべてのデータを表示する 1 つのビューと、データを入力および編集する 1 つのロケーションがあります。共有データは、Marketing Operations でのみ表示および編集できます。キャンペーンの実行に必要なデータが公開されるタイミングを制御するには、Marketing Operations を使用します。

継続的なデータの転送は、Marketing Operations から公開を通じて開始される必要があります。Campaign は、データの要求 (例えば、セル状況情報やキャンペーン・メトリックの取得など) に応答したり、Marketing Operations からデータ (例えば、キャンペーン属性や TCS データ) を受信したりします。しかし、Campaign は、要求されていないデータを Marketing Operations に送信することはできません。

キャンペーン・データの転送

Marketing Operations では、任意の数のカスタム・キャンペーン属性を定義し、それらを標準キャンペーン属性と共にキャンペーン・プロジェクト・テンプレートに配置することができます。Marketing Operations でこれらの属性にデータを入力し、手動でそのデータを Campaign に公開します。Campaign では、これらのキャンペーン属性を、フローチャート内の生成フィールドとして、およびレポートおよび分析用として使用できます。Marketing Operations ユーザーは、キャンペーンが Campaign で作成されるタイミングと、キャンペーン属性データが Campaign に公開されるタイミングを制御します。Campaign は、常に公開されたキャンペーン属性の最新セットを使用します。

セル・データの転送

継続中のデータ転送の 2 つ目の主要なエリアは、ターゲット・セル・スプレッドシートです。TCS は、ターゲット・セルとコントロール・セルのセル・レベル情報 (セル名、セル・コード、割り当て済みのオファー、コントロール・セル・リンケー

ジ、およびカスタム・セル属性など)を管理します。セル定義の Marketing Operations から Campaign への転送と、セル・ステータスの Marketing Operations への返送は、反復可能です。企業では多くの場合、セル定義およびセル数がファイナライズされ、TCS の行が個別に承認され、キャンペーンの実行準備が整うまでに、いくつかのサイクルを必要とします。

オファー・データの転送

オファー統合が有効なシステムの、継続中のデータ転送の 3 つ目の主要なエリアは、オファー・データです。オファーは Marketing Operations で作成されます。新規オファーが Marketing Operations で作成されると、そのオファーの状態は「ドラフト」になっています。オファーの状態を「公開済み」に変更すると、オファー・インスタンスが Campaign にプッシュされます。最初の公開で、Campaign にオファーが作成されます。以降の公開では、Campaign のオファー・インスタンスが更新されます。

同様に、オファー・テンプレートの状態を「公開済み」に変更すると、そのオファー・テンプレートと Marketing Operations で定義した任意のオファー属性の両方が Campaign にプッシュされます。

最初にオファー統合を有効にしたときに、既存のオファー・メタデータおよびデータを Campaign から Marketing Operations にインポートできます。61 ページの『Campaign からオファーをインポート』を参照してください。

統合された IBM Campaign とスタンドアロン IBM Campaign の相違点

Campaign が Marketing Operations と統合された場合、Campaign のインストール済み環境は、スタンドアロンのインストール済み環境とは異なります。

- キャンペーン (ただし、統合を有効にする前に作成したキャンペーンを除く) を作成またはアクセスする唯一の方法は、対応する Marketing Operations プロジェクトを使用することです。Campaign の「キャンペーン一覧」ページには、統合が有効になる前に作成されたキャンペーンのみが表示されます。
- ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) およびカスタム・セル属性は、Marketing Operations でのみ作成、表示、および管理されます。カスタム・セル属性は「キャンペーン・プロジェクト」テンプレートで定義されます。そのため、各タイプのキャンペーンが異なるカスタム・セル属性を持つことも、カスタム属性を異なる順序で表示することも可能です。それとは対照的に、スタンドアロンの Campaign では、すべてのキャンペーンで同じセル属性が同じ順序で保持されます。
- TCS はトップダウンまたはボトムアップのいずれにすることもできます。ボトムアップ・セルは、「MO_UC_BottomUpTargetCells」設定が「はい」の場合 (「設定」>「構成」>「IBM Marketing Software」>「Campaign」>「パーティション」>「パーティション[n]」>「サーバー」>「内部」)、統合された Marketing Operations-Campaign システムで使用可能になります。
- ボトムアップ TCS 設定が「はい」の場合、フローチャートは、TCS のトップダウン・セルにリンクされていない場合でも、Campaign で実稼働モードで実行できます。

- キャンペーンの「サマリー」タブは、Campaign には存在しません。キャンペーンのサマリー情報を確認するには、Marketing Operations 内のキャンペーン・プロジェクトの「サマリー」タブの「キャンペーン・サマリー」セクションを表示します。オファーおよびセグメントの情報は、Campaign の新しい「セグメント/オファー」タブに表示されます。キャンペーン・プロジェクト・テンプレートは Marketing Operations で管理するので、各キャンペーン・テンプレートは、異なるキャンペーン・カスタム属性のセットを持つことができます。これらのカスタム属性は、プロジェクト内の 1 つ以上のタブで編成できます。

また、より堅固な Marketing Operations の属性機能を利用することもできます。これらの機能には、レイアウトのオプション、属性が必須であるかオプションであるかを識別する機能、リストをユーザー・インターフェースの条件にする機能、およびデータベース表からの動的データ値が含まれます。スタンドアロンの Campaign では、すべてのキャンペーンで同じカスタム・キャンペーン属性が同じ順序で保持されます。

- 「IBM Marketing Operations - オファー統合」を「はい」(「設定」>「構成」>「IBM Marketing Software」>「Platform」) に設定することによりオファー統合を有効にした場合、Campaign でオファー・テンプレートやオファーを作成したり操作したりすることはできません。代わりに、Marketing Operations を使用してオファー・テンプレートを作成し、オファーを作成、変更、承認、公開、または回収します。それから、オファー・テンプレートや承認されたオファーを Campaign に公開して使用可能にすることができます。

注: オファー統合は、キャンペーン統合とは別個のオプションです。キャンペーン統合が有効になっているときに、オファー統合も有効にすることが可能です。詳しくは、60 ページの『Marketing Operations でのオファー統合の有効化』を参照してください。

統合された IBM Marketing Operations とスタンドアロン IBM Marketing Operations の相違点

キャンペーン統合が有効な場合、Marketing Operations のキャンペーン・プロジェクトを管理して、密結合の Campaign 機能を利用します。オファー統合も有効になっている場合、オファーのライフサイクルを Marketing Operations で管理することが可能で、オファーを Campaign に公開することができます。

キャンペーン・プロジェクト管理

キャンペーン統合が有効な場合、ユーザーはキャンペーン・プロジェクト・テンプレートから Marketing Operations にプロジェクトを作成します。

Marketing Operations のスタンドアロン・インストールでは、新規プロジェクトを作成するためにキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを使用することはできません。スタンドアロン・インストールでは、プロジェクト・テンプレートを作成して、マーケティング・キャンペーンを管理するために使用できます。ただし、これらのオブジェクトは、Campaign での対応するキャンペーンやターゲット・セル・スプレッドシートにはリンクしていません。オファーとの統合はなく、キャンペーンのコンタクトとレスポンスに渡すメトリックもありません。

統合されたインストールでは、キャンペーン・プロジェクトに、Campaign とのデータ転送を開始したり、Campaign の対応するキャンペーンとの間でナビゲートしたりするアイコンやリンクがあります。

オファ어의ライフサイクル管理

キャンペーン統合が有効になっている場合、オファ어統合も有効にすることができます。オファ어統合を有効にした場合（「設定」 > 「構成」 > 「IBM Marketing Software」 > 「IBM Marketing Platform」）、オファ어의ライフサイクル管理は、Marketing Operations のみを使用して行います。Marketing Operations を使用してオファ어・テンプレートを作成し、オファ어를作成、変更、承認、公開、または回収することができます。承認されたオファ어를、Campaign に公開して使用可能にすることができます。

IBM Marketing Operations および IBM Campaign の統合のライセンスおよび権限の問題

Marketing Operations と Campaign が統合されると、キャンペーンの設計、作成、および実行に携わるすべてのスタッフに、Marketing Operations のライセンスが必要になります。

Campaign のみで作業するチーム・メンバー（フローチャート開発者など）には、ワークフロー通知を受け取ったり、キャンペーンにアクセスしたりするために Marketing Operations のライセンスが必要になります。統合環境では、Marketing Operations を使用することが、キャンペーンにアクセスする唯一の方法です。

Marketing Operations キャンペーン・プロジェクトの一部のアクションでは、Campaign 権限が必要です。これらの権限を付与する役割を Campaign で作成し、その役割を Marketing Operations で作業するユーザーに割り当てることができます。次の表は、アクションおよびそれに必要な権限をリストしたものです。

表 1. キャンペーン・アクションに必要な権限：

以下の 2 列から成る表には、1 列目にアクション、2 列目に必要なキャンペーンの権限が示されています。

アクション	必要な Campaign 権限
リンクされたキャンペーンの作成	キャンペーンの作成
リンクされたキャンペーンの更新	キャンペーンの編集
TCS の公開	キャンペーン・ターゲット・セルの管理
セルの実行ステータスの取得	キャンペーン・ターゲット・セルの管理
TCS でのオファ어의検索および割り当て	オファ어・サマリーの表示
メトリックのインポート	キャンペーンの分析

統合を無効にして再度有効にする

統合が有効にされた後で無効にすることは可能ですが、可能な限りこのアクションは回避してください。

Marketing Operations-Campaign 統合を無効にする

Marketing Operations と Campaign の統合を無効にすると、Campaign はそのスタンドアロンの動作と外観に戻されます。ただし、以下のいくつかの重要な点について留意する必要があります。

- 統合を無効にした後で、統合されたキャンペーンに関連付けられたフローチャートにアクセスするには、統合をオフにする前に Marketing Operations 内のすべてのキャンペーンを公開する必要があります。そうすると、キャンペーンは Campaign 内の最上位フォルダー内で使用可能になります。
- 統合を無効にすると、キャンペーン・プロジェクトとキャンペーンの間にナビゲーション・リンクがなくなります。ユーザーは各自のキャンペーン・プロジェクトにアクセスできますが、キャンペーンを作成したり更新したりするためのアイコンは無効になります。TCS データを公開するためのオプションやセルのステータスを取得するためのオプションは使用できません。キャンペーン・プロジェクト・テンプレートは、ユーザーに対して表示されるテンプレートのリストには含まれません。
- 統合を再度有効化する場合、IBM 技術サポートに連絡し、その影響について話し合ってください。統合が無効にされている間にキャンペーンに加えられた変更はすべて、統合を再度有効にした後に初めてキャンペーンを更新するときか、Marketing Operations 内から TCS を公開するときに上書きされます。

オファー統合の無効化

オファー統合を無効にするとデータが不整合になる可能性があるため、このアクションは避けてください。例えば、オファーが Marketing Operations で作成されて、Campaign に公開されたとします。オファー統合をオフにした後に、そのオファーが Campaign で変更されます。オファー統合が再度オンにされても、Campaign で行われた変更は Marketing Operations と同期されません。Marketing Operations は、オファー・データが Campaign から再インポートされた後でも更新されたオファー情報を持ちません。製品間でのデータの転送は、基本的に Marketing Operations から Campaign への片方向です。

関連タスク:

7 ページの『統合された配置のプロパティ設定の構成』

Marketing Operations と Campaign の統合

IBM Marketing Operations と Campaign の統合のワークフローは、以下の手順で構成されます。

このタスクについて

Marketing Operations と Campaign を統合するには、以下の手順を実行します。

手順

1. Marketing Operations と Campaign の両方をインストールします。詳しくは、「*IBM Marketing Operations* インストール・ガイド」と「*IBM Campaign* インストール・ガイド」を参照してください。

2. 統合されたデプロイメントをサポートするように、構成設定を調整します。『統合された配置のプロパティ設定の構成』を参照してください。
3. 必要な属性、フォーム、およびキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを設計します。

オファー統合がシステムで有効になった場合、オファー属性を使用してオファー・テンプレートを設計します。59 ページの『第 4 章 統合システムでのオファーおよびオファー・テンプレート』を参照してください。

4. 共有属性を作成します。
5. フォーム (ターゲット・セル・スプレッドシートを収めたフォームも含む) およびローカル属性を作成します。
6. Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックに関連付けるメトリック・マップ・ファイルを作成します。
7. キャンペーン・プロジェクトとオファー・テンプレートを作成します。

統合された配置のプロパティ設定の構成

Marketing Operations と Campaign が統合されたら、Marketing Operations を使用してキャンペーンを計画、作成、および承認します。

このタスクについて

オファー統合が有効なシステムでは、オファーのライフサイクル管理用の機能が Marketing Operations に追加されます。60 ページの『Marketing Operations でのオファー統合の有効化』を参照してください。

Marketing Operations と Campaign を統合するには、以下のプロパティを設定します。

手順

1. 「設定」 > 「構成」ページの「IBM Marketing Software」の下で、「IBM Marketing Platform」をクリックします。
2. 「設定の編集」をクリックして、「IBM Marketing Operations - Campaign 統合」を True に設定します。この設定により統合が有効になるので、Marketing Operations を使用してキャンペーンを作成、計画、および承認することができます。
3. Campaign インストール済み環境に複数のパーティションがある場合は、統合を有効にするパーティションごとにプロパティを設定します。「IBM Marketing Software」 > 「キャンペーン」 > 「パーティション」 > 「パーティション[n]」 > 「サーバー」と展開して、「内部」をクリックします。
4. 「設定の編集」をクリックして、「MO_UC_integration」を「はい」に設定します。この設定により、このパーティションで Marketing Operations-Campaign 統合が有効になります。

注: 次の 2 つのいずれかのオプションを「はい」に設定するには、最初に「MO_UC_integration」を「はい」に設定しておく必要があります。以下のオプションは、「MO_UC_integration」が有効になっているときにのみ適用されます。

5. オプション: 「**MO_UC_BottomUpTargetCells**」を「はい」に設定します。

「**MO_UC_integration**」が有効になっているとき、Marketing Operations から作成される TCS セルは常にトップダウンです。このパーティションでボトムアップのターゲット・セル・スプレッドシートのセルを使用可能にするには、このプロパティを「はい」に設定します。「はい」に設定すると、トップダウン・ターゲット・セルとボトムアップ・ターゲット・セルの両方が表示され、Marketing Operations ターゲット・セル・スプレッドシートで「ボトムアップ・セルを取得」コントロールが使用可能になります。このコントロールにより、Campaign で作成したボトムアップ・セルを Marketing Operations に取得できます。ボトムアップ・セルは Marketing Operations では読み取り専用であり、Marketing Operations から Campaign に逆に公開することはできません。

6. オプション: 「**Legacy_campaigns**」を「はい」に設定します。

この設定により、統合する前に作成されたキャンペーン (Affinium Campaign 7.x で作成され、Affinium Plan 7.x プロジェクトにリンクされたキャンペーンなど) にアクセスできるようになります。

7. 必要に応じて、他のパーティションでステップ 4 から 6 を繰り返します。
8. 「**IBM Marketing Software**」 > 「**Marketing Operations**」 > 「**umoConfiguration**」と展開して、「**campaignIntegration**」をクリックします。
9. 「設定の編集」をクリックして、「**defaultCampaignPartition**」を設定します。

Marketing Operations と Campaign が統合されたときに、このパラメーターが、プロジェクト・テンプレートによって **campaign-partition-id** が定義されていない場合に使用するデフォルトの Campaign パーティションを指定します。デフォルトは **partition1** です。

10. Web サービスの統合 API 呼び出しに **webServiceTimeoutInMilliseconds** を設定します。

このパラメーターは、Web サービス API 呼び出しのタイムアウト値として使用されます。

タスクの結果

60 ページの『Marketing Operations でのオファー統合の有効化』のステップに進んでください。

関連概念:

- 5 ページの『統合を無効にして再度有効にする』

リンクされたレガシー・キャンペーンから Marketing Operations プロジェクトへのナビゲート

レガシー・キャンペーンは、IBM Marketing Operations との統合が有効になる前に IBM Campaign で作成されたキャンペーンです。

このタスクについて

統合されたシステムを使用し、統合前に作成されたキャンペーンにアクセスする場合は、以下の手順に従います。

統合環境では、以下のタイプのレガシー・キャンペーンにアクセスできるように Campaign を構成できます。

- 統合が有効になる前に、スタンドアロン Campaign (Campaign が現行バージョンか旧バージョンかを問わず) で作成されたキャンペーン。これらのキャンペーンは Marketing Operations プロジェクトにリンクできません。
- Affinium Campaign 7.x で作成され、Affinium Plan 7.x プロジェクトにリンクされたキャンペーン。このようなキャンペーンの機能は、両製品の属性間のデータ・マッピングによって、バージョン 7.x の製品と同じ状態を維持します。

統合を有効にした後でも、Campaign で両方のタイプのレガシー・キャンペーンにアクセスし、操作することができます。

手順

1. 「Campaign」 > 「キャンペーン」を選択します。

「キャンペーン一覧」ページが開き、現在のパーティション内のフォルダーまたはキャンペーンが表示されます。レガシー・キャンペーンのみがリストされません。

Marketing Operations と Campaign の統合が有効になった状態で作成されたキャンペーンを表示するには、「キャンペーン・プロジェクト」フォルダーをクリックします。レガシー・キャンペーンがない場合、または構成内でレガシー・キャンペーンが有効になっていない場合、このページは空になります。

2. 前に Marketing Operations または Affinium Plan のプロジェクトにリンクしたキャンペーンの名前をクリックします。

「サマリー」タブにキャンペーンが開きます。

3. 「親項目およびコード」フィールドのプロジェクト名をクリックします。

Marketing Operations が開き、リンクされたプロジェクトの「サマリー」タブが表示されます。

4. Campaign に戻るには、Marketing Operations の「サポートするプロジェクトと要求」フィールドのプロジェクト名をクリックします。

Marketing Operations の資料とヘルプ

組織に属するさまざまなスタッフが、さまざまなタスクを達成するために IBM Marketing Operations を使用します。Marketing Operations に関する情報は一連のガイドに記載されており、それぞれは特定の目的およびスキル・セットを持つチーム・メンバーが使用することを目的としています。

次の表に、各ガイドで参照できる情報を示します。

表 2. Marketing Operations 資料セットのガイド :

以下の 3 列から成る表には、1 列目に操作、2 列目にガイド名、3 列目に対象読者が示されています。

操作	参照先	対象読者
<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトを計画および管理します。 ワークフロー・タスク、マイルストーン、およびスタッフを確立します。 プロジェクト費用を追跡します。 内容に関するレビューおよび承認を得ます。 レポートを作成します。 	IBM Marketing Operations ユーザー・ガイド	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト・マネージャー クリエイティブ・デザイナー ダイレクト・メール・マーケティング・マネージャー
<ul style="list-style-type: none"> テンプレート、フォーム、属性、およびメトリックを設計します。 ユーザー・インターフェースをカスタマイズします。 ユーザー・アクセス・レベルおよびセキュリティを定義します。 オプション機能を実装します。 Marketing Operations を構成およびチューニングします。 	IBM Marketing Operations 管理者ガイド	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト・マネージャー IT 管理者 実装コンサルタント
<ul style="list-style-type: none"> マーケティング・キャンペーンを作成します。 オファーを計画します。 Marketing Operations と Campaign の間の統合を実装します。 Marketing Operations と IBM Digital Recommendations の間の統合を実装します。 	IBM Marketing Operations and IBM 統合ガイド	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト・マネージャー マーケティング実行の専門家 ダイレクト・マーケティング・マネージャー
<ul style="list-style-type: none"> 新しいシステム機能について学習します。 既知の問題および回避策を調査します。 	IBM Marketing Operations リリース・ノート	Marketing Operations を使用する全員

表 2. Marketing Operations 資料セットのガイド (続き) :

以下の 3 列から成る表には、1 列目に操作、2 列目にガイド名、3 列目に対象読者が示されています。

操作	参照先	対象読者
<ul style="list-style-type: none"> Marketing Operations をインストールします。 Marketing Operations を構成します。 Marketing Operations の新規バージョンにアップグレードします。 	IBM Marketing Operations インストール・ガイド	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア実装コンサルタント IT 管理者 データベース管理者
Marketing Operations を他のアプリケーションと統合するカスタム手順を作成します。	「IBM Marketing Operations 統合モジュール」、および API JavaDoc (Marketing Operations で「ヘルプ」>「製品資料」をクリックし、IBM<version>PublicAPI.zip ファイル (SOAP API 用) および IBM<version>PublicAPI-RestClient.zip (REST API 用) をダウンロードすることで入手可能)。	<ul style="list-style-type: none"> IT 管理者 データベース管理者 実装コンサルタント
Marketing Operations データベースの構造について学習します。	IBM Marketing Operations システム・スキーマ	データベース管理者
作業中に詳細情報が必要になった場合	<ul style="list-style-type: none"> ヘルプを表示して「Marketing Operations ユーザー・ガイド」、 「Marketing Operations 管理者ガイド」、または「Marketing Operations インストール・ガイド」を検索または参照します。「ヘルプ」>「このページのヘルプ」をクリックしてください。 すべての Marketing Operations ガイドにアクセスします。「ヘルプ」>「製品資料」をクリックしてください。 すべての IBM Marketing Software 製品のガイドにアクセスします。「ヘルプ」>「すべての IBM Marketing Software Suite 資料」をクリックしてください。 	Marketing Operations を使用する全員

第 2 章 キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの設計

作成できるキャンペーン・プロジェクト・テンプレートの数に制限はありません。例えば、実行するキャンペーンのタイプごとに別個のキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成できます。

必要なフォームの固有の組み合わせごとに、別個のテンプレートを作成します。例えば、いくつかのキャンペーンのターゲット・セルを定義するために異なる情報を収集する必要がある場合、異なるターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) を作成します。次に、各 TCS を別個のテンプレートと関連付けます。同様に、いくつかのカスタム・キャンペーン属性が特定のタイプのキャンペーンにのみ関連している場合、異なるキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成することができます。別々のテンプレートを作成して、カスタム・キャンペーン属性、属性の表示順序、およびタブ上の属性の編成を制御することができます。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレート、フォーム、および属性の設計

Marketing Operations でオブジェクトの作成を開始する前に、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートと、そこに必要なフォームおよび属性を計画および設計します。

設計プロセスの結果、作成する属性とフォームのリストと、それらに関する以下のような詳細が生成されます。

- 属性が複数フォーム (共用) または単一フォーム (ローカル) のいずれでの使用に適しているか
- ユーザーが、テーブルによって提供されるデータから選択するか、定義した項目のリストから選択するか、またはテキストを直接属性に入力するか
- ユーザー・インターフェース・フィールドでどのような制約が必要か、オファー属性をフォームに追加したときにパラメーター化 (編集可能に) する必要があるか、静的または非表示の静的に設定する必要があるか。

キャンペーン属性とセル属性は、共有属性でなければなりません。フォーム属性とグリッド属性は、共有であってもローカルであっても構いません。

ターゲット・セル・スプレッドシートおよびその他のフォーム

デフォルトでは、プロジェクトには「サマリー」、「スタッフ」、「ワークフロー」、「追跡」、「添付ファイル」、および「分析」というタブがあります。財務管理モジュールがインストールされている場合、プロジェクトには「予算」タブもあります。

キャンペーン・プロジェクトの「サマリー」タブには、基本キャンペーン情報の一連のフィールドがあります。これらの基本キャンペーン属性は、削除することも再配列することもできません。

ユーザーがプロジェクトに関する情報をさらに多く入力できるようにするには、フォームを作成して、そのフォームをプロジェクト・テンプレートに追加する必要があります。

あります。各フォームは、そのテンプレートを元に作成されたプロジェクトの「サマリー」タブや別のタブに表示されます。

すべてのキャンペーン・プロジェクト・テンプレートには、TCS フォームが必要です。その他のフォームはオプションです。

「キャンペーン・サマリー」セクション

すべてのキャンペーン・プロジェクトの「サマリー」タブには、「キャンペーン・サマリー」セクションがあります。

「キャンペーン・サマリー」セクションには、以下のデフォルトのキャンペーン属性が含まれています。

表 3. 「キャンペーン・サマリー」セクションのデフォルトのキャンペーン属性：

以下の 2 列から成る表には、1 列目に属性、2 列目にフィールドの説明が示されています。

属性	フィールドの説明
キャンペーンの説明	テキスト・フィールド
キャンペーン開始日	日付フィールド
キャンペーン終了日	日付フィールド
キャンペーンの目標	テキスト・フィールド
キャンペーン・イニシアチブ	テキスト・フィールド
キャンペーン・セキュリティー・ポリシー	Campaign のすべてのセキュリティー・ポリシーが定義されたドロップダウン・リスト。

デフォルト・キャンペーン属性は、「管理設定」の「共有属性」ページ上のキャンペーン属性のリストには表示されず、編集できません。

ターゲット・セル・スプレッドシート

ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) は、定義済みの属性の一式が含まれる、編集可能なグリッド・コンポーネントです。ターゲット・セル・スプレッドシートは、IBM Marketing Operations-Campaign 統合が有効な場合に使用します。

TCS では、キャンペーンのターゲット・セルおよびコントロール・セルを定義するためにキャンペーン・プロジェクトでユーザーが入力する必要があるデータが指定されます。TCS の各列は、1 つの属性に対応しています。定義済み、またはデフォルトの属性の値は、自動的に Campaign に渡されます。これらのデフォルト属性に加えて、カスタム属性をいくつでも TCS に追加することができます。

セル属性とグリッド属性

TCS には、IBM Campaign に渡される属性 (セル属性) と、IBM Marketing Operations だけに表示される属性 (グリッド属性) を含めることができます。

セル属性は、Campaign に渡す必要がある情報に使用します。例えば、出力リスト、コンタクト履歴、またはレポートに含める属性の値は、セル属性として作成しなければなりません。

グリッド属性は、Campaign では必要のない、説明、計算、およびデータに使用します。

ターゲット・セル・スプレッドシートとフォーム

TCS をフォームに追加するには、編集可能なグリッドを新規作成し、それを TCS として指定します。(フォームには、TCS に加えて、他の属性を含めることができます。) TCS グリッド・コンポーネントをフォームに配置すると、そのフォームにはデフォルト・セル属性が入ります。デフォルト属性は削除できません。

セル属性データの転送

ユーザーがフローチャート・セルを TCS の行にリンクすると、デフォルト属性に設定されたデータ値が自動的に Campaign に渡されます。カスタム・セル属性は、Campaign で、コンタクト・プロセスの IBM Campaign 生成フィールドとして自動的に使用可能になります。生成フィールドについては、「IBM Campaign ユーザー・ガイド」を参照してください。

ターゲット・セル・スプレッドシートとテンプレート

各キャンペーン・プロジェクト・テンプレートには、TCS を 1 つだけ含めることができます。

ターゲット・セル・スプレッドシートのデフォルト・セル属性

デフォルトでは、すべての TCS グリッドに定義済みのセル属性が含まれます。これらの属性は、TCS グリッド専用として用意されており、「共有属性」ページには表示されません。

キャンペーン・プロジェクトでこれらの属性がユーザーにどのように表示されるかについての説明が続きます。

表 4. デフォルト・セル属性：

以下の 3 列から成る表には、1 列目にセル名、2 列目に公開要件、3 列目にそれらの説明が示されています。

名前	TCS の公開に 必須か？	説明
セル名	はい	テキスト・フィールド。
セル・コード	いいえ	テキスト・フィールド。
説明	いいえ	テキスト・フィールド。
コントロール・セルかどうか	はい	「はい」と「いいえ」のオプションを備えたドロップダウン・リスト
コントロール・セル	いいえ	コントロール・セルのドロップダウン・リスト。
割り当て済みの オファー	いいえ	1 つ以上のオファーまたはオファー・リストを選択するために使用できる選択コントロール。
承認済みかどうか	いいえ	「はい」と「いいえ」のオプションを備えたドロップダウン・リスト。この列は、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートで「承認が必要」がチェックされている場合にのみ含まれます。

表 4. デフォルト・セル属性 (続き):

以下の 3 列から成る表には、1 列目にセル名、2 列目に公開要件、3 列目にそれらの説明が示されています。

名前	TCS の公開に 必須か？	説明
フローチャート	いいえ	セルが使用されるフローチャートの名前を表示する、読み取り専用フィールド。
最後の実行	いいえ	このセルを含むフローチャートが前回実行された日時を表示する、読み取り専用フィールド。
実数	いいえ	このセルの前の実行カウント (セル内の一意のオーディエンス ID のカウント) を表示する、読み取り専用フィールド。
実行タイプ	いいえ	このセルを含むフローチャートの前回の実行における実行タイプ (実稼働またはテスト。フローチャート、ブランチ、またはプロセス・ボックス) を示す、読み取り専用フィールド。

TCS グリッドを追加した後、個々のセル属性の属性表示名、説明、その他のプロパティの一部を編集することができます。以下のプロパティの事前定義値は編集することができません。

- 属性カテゴリー
- 属性タイプ
- 属性内部名
- 属性表示名
- 属性データベース列名
- グループ化可能
- フォーム要素タイプ
- 特別な動作

オファー・テンプレートの設計

オファー統合が有効になったら、ユーザーによるオファーの作成をガイドするためのオファー・テンプレートを Marketing Operations で作成できます。オファー・テンプレートで作業するには、まずテンプレートを設計し、次にそれらを構築するために使用するカスタム・オファー属性とフォームを作成します。

このタスクについて

注: オfferの管理と使用について詳しくは、管理者およびユーザー向けの Campaign のガイドを参照してください。

手順

1. オffer・テンプレートの作成準備が整ったら、「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「テンプレート構成」 > 「テンプレート」を選択します。
2. 「オffer・テンプレート」セクションの各オプションに入力します。

3. 既存のオファー・テンプレート、属性、オファー、オファー・リスト、およびオファー・フォルダーを Campaign からインポートできます。

IBM Digital Recommendations カテゴリを含める

IBM Marketing Operations では、管理者は、IBM Digital Recommendations を使用してカテゴリ・データが設定されるように、オファー・テンプレートを構成できます。

始める前に

Marketing Operations をホストするサーバーは、インターネット接続が有効である必要があります。ユーザーは、これらのテンプレートからオファーを作成するとき、クライアント ID、およびカテゴリの ID と名前を手動で入力する代わりにリストから選択します。

オファー・テンプレートでこの機能を実装するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「オファー統合の使用」チェック・ボックスを選択します。
2. Digital Recommendations の URL を指定します。

注: ユーザーがこのテンプレートからオファー・インスタンスを作成した後、指定した URL を変更しないでください。

3. クライアント ID を指定します。値を入力して「追加」をクリックすることも、「インポート」をクリックして以前に定義されたリストから値をインポートすることもできます。『クライアント・リストの定義』を参照してください。

タスクの結果

ユーザーは、この方法で構成されたテンプレートからオファーを作成するとき、指定された値のリストからクライアント ID を選択します。選択されたクライアントのカテゴリの名前および ID のリストは、Digital Recommendations から直接設定されます。

クライアント・リストの定義

Marketing Operations ユーザー・インターフェースには、管理者がカスタマイズされたオプションを構成できるいくつかのリスト・ボックス・コントロールが表示されます。

このタスクについて

注: 定義済みリストについて詳しくは、「IBM Marketing Operations 管理者ガイド」の『リスト・オプションの定義』の章を参照してください。

IBM Digital Recommendations 実装によって使用されているクライアントの ID および名前のリストを定義するには、以下のステップを実行します。

手順

「設定」 > 「リスト定義」 > 「Coremetrics クライアント」 を選択します。

属性の設計

ユーザーがプロジェクトに入力可能な情報の各アイテムに対応する属性が、テンプレート内のタブにあります。

このタスクについて

キャンペーン、セル、またはオファ어의パフォーマンス・レポートに情報を含めるには、その情報が対応する属性によって収集されるようにしてください。情報はキャンペーン属性、セル属性、またはオファ어属性によって Campaign に渡されます。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートには、以下のような属性カテゴリーが含まれます。

手順

- グリッドの外側のフォームの Marketing Operations でのみ使用される情報には、フォーム属性を使用します。
- グリッド (TCS グリッドも含む) の内側のフォームの Marketing Operations でのみ使用される情報には、グリッド属性を使用します。
- Campaign と共有され、グリッドの外側のフォームに表示される情報には、キャンペーン属性を使用します。
- Campaign と共有され、TCS グリッドの内側のフォームに表示される情報には、セル属性を使用します。
- オファ어도統合するシステムの場合、オファ어属性を使用して、Campaign と共有するオファ어情報を収集します。オファ어属性は、その属性を使用するオファ어가 Campaign に公開されると、Campaign と同期されます。
- 共有属性を表示または定義するには、「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「テンプレート構成」 > 「共有属性」を選択します。すべてのキャンペーン属性、セル属性、およびオファ어属性を共有属性として作成します。フォーム属性とグリッド属性は、単一フォームにのみ関連している場合にはローカルとして作成でき、複数フォームで使用することを計画している場合は共有として作成できます。

注: 標準のデフォルト属性は編集不可であり、「共有属性」ページにはリストされません。例えば、デフォルト・セル属性はすべてのターゲット・セル・スプレッドシートに表示されますが、「共有属性」ページにはリストされません。

キャンペーン属性

IBM Marketing Operations と Campaign が統合されたら、Marketing Operations にカスタム・キャンペーン属性を作成します。すべてのキャンペーン属性は共有され、Marketing Operations を使用して、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを構成するフォームにこれらの属性を追加します。

カスタム・キャンペーン属性を含んだテンプレートからキャンペーン・プロジェクト用のリンクされたキャンペーンを作成すると、対応する属性が Campaign に作成されます。リンクされたキャンペーンを作成した後で、キャンペーン属性によって作成されたフィールドに入力したデータを変更した場合、新しい情報を Campaign

に送信するために、キャンペーンを更新する必要があります。キャンペーン属性の説明およびフォームの説明を使用して、キャンペーンの更新が必要なフィールドをユーザーに通知してください。

セル属性

セル属性は、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用するために IBM Campaign にマップされる IBM Marketing Operations 属性です。Marketing Operations には、すべての TCS に含まれるデフォルト・セル属性のセットがあります。

Marketing Operations でカスタム・セル属性を作成することもできます。ユーザーが、カスタム・セル属性を含んだテンプレートから、キャンペーン・プロジェクト用のリンクされたキャンペーンを作成すると、対応するセル属性が Campaign に自動的に作成されます。

オファー属性

オファー統合が有効になると、Campaign の標準属性に対応する標準オファー属性のセットが Marketing Operations に提供されます。Marketing Operations でカスタム・オファー属性を作成することもできます。

すべてのオファー属性は、共有属性です。

オファー属性を処理するには、「設定」>「Marketing Operations 設定」>「テンプレート構成」>「共有属性」を選択します。

標準のオファー属性:

次の表は、オファー統合を可能にする Marketing Operations システムで使用可能なオファー属性をリストしています。

表 5. 標準のオファー属性

属性表示名	属性内部名*	属性タイプ
平均。レスポンス収益	AverageResponseRevenue	金額
チャンネル	チャンネル	単一選択
チャンネル・タイプ	ChannelType	単一選択
オファー当たりのコスト	CostPerOffer	金額
クリエイティブ URL	CreativeURL	クリエイティブ URL
開始日	EffectiveDate	日付選択
終了日	ExpirationDate	日付選択
有効期限期間	ExpirationDuration	浮動
フルフィルメント・コスト	FulfillmentCost	金額
インタラクション・ポイント ID	UACInteractionPointID	浮動
インタラクション・ポイント	UACInteractionPointName	テキスト - 単一行
オファーの固定費	OfferFixedCost	金額

* オファー統合が有効な Marketing Operations システムでは、属性内部名はすべて小文字のテキストとして格納されます。

オファー属性の動作オプション:

管理者がオファー属性をフォームにインポートするとき、その動作を選択し、デフォルト値を指定します。

オファー属性の動作オプションは、以下のとおりです。

- パラメーター化済み。これは、ユーザー・インターフェースにおいてこの属性が必須フィールドであることを意味します。ユーザーは、デフォルト値を受け入れるか、または異なる値を指定できます。
- 静的。これは、ユーザー・インターフェースにおいてこの属性がオプション・フィールドであることを意味します。ユーザーは、デフォルト値を受け入れる、異なる値を指定する、またはフィールドを NULL のままにできます。
- 非表示の静的。これは、この属性および値がユーザーに表示されないことを意味します。非表示の静的属性およびその値をレポートに含めることができます。

これらの動作の選択項目は、Campaign でオファーを使用できる方法に対応しています。これらの選択項目について詳しくは、「IBM Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

フォームでオファー属性の動作を定義するには、(フォームに属性をインポートするとき、「静的」、「非表示」、または「パラメーター化済み」のいずれかの属性を選択します) 属性の名前をクリックして「>>」をクリックします。

クリエイティブ URL オファー属性:

「クリエイティブ URL」とは、製品ロゴ、ブランド・イメージ、マーケティング・リサーチ文書、文書テンプレートなどのデジタル資産へのリンクのことです。オファー・テンプレートに、システム提供のクリエイティブ URL オファー属性が含まれている場合、ユーザーはデジタル資産を Marketing Operations 資産ライブラリーから選択して各オファーに含めます。

クリエイティブ URL オファー属性は、システム提供の共有属性で、以下のような特性があります。

- 管理者は Marketing Operations でフォーム定義の作業を行うときに、共有クリエイティブ URL 属性を「パラメーター化済み」、「静的」、または「非表示」としてインポートできます。クリエイティブ URL が「パラメーター化済み」の場合、フォーム定義および対応するオファー・インスタンスで資産値が必要です。
- クリエイティブ URL 属性には、独自の属性タイプがあります。ユーザー・インターフェースでは、クリエイティブ URL の属性タイプによって、フィールドおよび関連する「選択」ボタンが示されます。ユーザーは「選択」をクリックして、既存の資産を選択するか、または資産を追加します。資産名は、関連するフィールドに表示されます。
- 管理者がフォームまたはオファー・テンプレートをエクスポートあるいはインポートするときに、ソースとターゲットの両方のシステムは、同じバージョンの Marketing Operations を実行している必要があります。エクスポート・ファイルおよびインポート・ファイルでは、クリエイティブ URL 属性に対して「デジタル資産」の内部フィールド名が使用されます。

- 管理者がカスタマイズされたアラートをセットアップするとき、クリエイティブ URL 属性を変数として含めることができます。メッセージ・テキストが資産名を表示します。
- ユーザーは、「操作」>「オファー」リスト・ページにクリエイティブ URL 属性の列を含めることができます。
- 「操作」>「オファー」リスト・ページで、ユーザーはクリエイティブ URL 属性を使用してオファーを検索できます。検索では、資産名を使用します。
- ユーザーがスマート・オファー・リストを作成するとき、その条件にクリエイティブ URL 属性を含めることができます。条件では、資産名を使用して結果を返します。

キャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性

IBM Marketing Operations と IBM Campaign の両方に存在する属性タイプのみが、キャンペーン属性およびセル属性で使用できます。

オファーも統合するシステムの場合、同じ制約がオファー属性にも適用されますが、以下の例外があります。Campaign に公開されるとき、クリエイティブ URL オファー属性の属性タイプは、「テキスト・フィールド - 文字列」に変更されません。

表 6. Marketing Operations のキャンペーン属性、セル属性、およびオファー属性の属性タイプ

属性タイプ	キャンペーン属性	セル属性	オファー属性
テキスト - 単一行	X	X	X
テキスト - 複数行	X	X	X
単一選択	X		X
単一選択 - データベース	X		X
複数選択 - データベース			
「はい」または「いいえ」	X	X	
日付選択	X	X	X
整数	X	X	
10 進数	X	X	X
金額	X	X	X
ユーザーが選択			
外部データ・ソース			
計算	X	X	X
URL フィールド			
単一選択オブジェクト参照			
複数選択オブジェクト参照			
イメージ			
クリエイティブ URL			X

注: 「単一選択 - データベース」属性タイプの属性の場合、IBM Marketing Operations は選択のルックアップ値 (表示値ではなく) を IBM Campaign に渡します。ルックアップ値および表示値は、ルックアップ・テーブルを作成する際に決定します。

Marketing Operations には、スタンドアロンの IBM Campaign のカスタム属性で使用可能な「変更可能なドロップダウン・リスト」に対応する属性タイプはありません。

共有属性を作成して有効にする

Marketing Operations 共有属性機能を使用して、共有属性を作成して有効にできません。

手順

1. 「設定」 > 「**Marketing Operations** 設定」を選択します。
2. 「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「共有属性」をクリックします。

表示されるページには、共有属性のカテゴリごとに 1 つのセクションが含まれます。

4. 作成する属性の「<category> 属性の作成」をクリックします。

「新しい共有属性の作成」ダイアログが開きます。

5. 値を指定して属性を定義します。
6. 「保存して終了」をクリックし、属性を作成して「共有属性」ページに戻るか、または「保存して他を作成」をクリックし、属性を作成して別の新しい属性の値を入力します。

異なる属性カテゴリを選択できます。

7. 「共有属性」ページで、新しい属性の行ごとの「有効にする」をクリックして、フォームでできるようにします。

ターゲット・セル・スプレッドシートの作成

ターゲット・セル・スプレッドシートを作成するには、以下の手順に従います。

始める前に

TCS を作成する前に、そこに含めるすべてのカスタム・セル属性を作成する必要があります。セル属性は IBM Campaign にマップされ、共有属性としてのみ作成できます。

手順

1. 「設定」 > 「**Marketing Operations** 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」で、「テンプレート構成」をクリックします。
3. 「テンプレート・コンポーネント」で、「フォーム」をクリックします。

4. 「フォーム定義」ページで、「新規フォーム作成」をクリックします。フォーム・エディター・インターフェースが表示されます。
5. 「フォーム・プロパティ」タブに入力して、「変更の保存」をクリックします。「要素の追加」タブが表示されます。
6. 「新しいグリッドの作成」をクリックします。「新しいグリッドの作成」ダイアログが開きます。
7. 「グリッド・タイプ」ドロップダウン・リストから、「編集可能グリッド表示」を選択します。
8. 「TCS」チェック・ボックスを選択します。
9. 残りのオプションを入力して、「保存して終了」をクリックします。

「要素の追加」タブで、クリックして「フォーム属性」のリストを展開します。TCS グリッド・コンポーネントが表示されます。

10. TCS グリッドをフォームに追加するには、グループ内に配置する必要があります。このグリッド用のグループがまだフォームに存在しない場合は、「属性グループ・ヘッダー」をクリックしてフォーム設計領域にドラッグし、適切な名前を付けます。
11. 「フォーム要素」のリストで、TCS グリッド・コンポーネントをクリックしてドラッグし、グループ上でドロップします。

デフォルト・セル属性がグリッドに表示されます。15 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシートのデフォルト・セル属性』を参照してください。

12. TCS に含める属性を追加します。次のいずれかの手順を行うことができます。
 - カスタム・セル属性をインポートし、それらを TCS に追加して列をさらに作成します。これらの列は、IBM Campaign に渡されます。
 - グリッド属性を作成またはインポートし、それらを TCS に追加して列をさらに作成します。これらの列は IBM Marketing Operations でのみ表示されます。
13. 「保存して終了」をクリックして TCS を保存し、「フォーム定義」リスト・ページに戻ります。

関連概念:

- 45 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシート』

Marketing Operations での IBM Campaign のコンタクトとレスポンスのデータの共有

ユーザーがコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations にインポートできるようにするには、コンタクト数とレスポンス・タイプを Marketing Operations メトリックにマップする必要があります。

注: Campaign は、1 つのオーディエンス・レベル

(UA_ContactHistory、UA_ResponseHistory、および UA_DtlContactHist システム・テーブルにマップされるオーディエンス・レベル) についてのみ、データを Marketing Operations に渡します。このオーディエンス・レベルは、任意のデータ

型または名前の、任意のオーディエンス・キー・フィールドを持つ、任意のオーディエンス・レベルにすることができます。オーディエンス・レベルについて詳しくは、Campaign の資料を参照してください。

レスポンス・タイプは、Campaign データベース内の UA_UsrResponseType システム・テーブルに保管されます。メトリックをレスポンス・タイプにマップするには、レスポンス・タイプの名前を知っておかなければなりません。

マッピングは、XML ファイルに保管されます。

IBM Campaign のコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations メトリックにマップする

ユーザーがコンタクト数およびレスポンス数を Marketing Operations にインポートできるようにするには、コンタクト数とレスポンス・タイプを Marketing Operations メトリックにマップする必要があります。

このタスクについて

注: Campaign は、1 つのオーディエンス・レベル (UA_ContactHistory、UA_ResponseHistory、および UA_DtlContactHist システム・テーブルにマップされるオーディエンス・レベル) についてのみ、データを Marketing Operations に渡します。このオーディエンス・レベルは、任意のデータ型または名前の、任意のオーディエンス・キー・フィールドを持つ、任意のオーディエンス・レベルにすることができます。オーディエンス・レベルについて詳しくは、Campaign の資料を参照してください。

レスポンス・タイプは、Campaign データベース内の UA_UsrResponseType システム・テーブルに保管されます。メトリックをレスポンス・タイプにマップするには、レスポンス・タイプの名前を知っておかなければなりません。

マッピングは、XML ファイルに保管されます。

手順

1. Campaign で、トラッキングするレスポンス・タイプを含めるように、UA_UsrResponseType テーブルのレスポンス・タイプのリストを必要に応じて変更します。
2. コンタクト数およびレスポンス・タイプに対応するメトリックを含めるように、システムで使用する Marketing Operations メトリック・ファイルを編集します。
3. Marketing Operations メトリックをコンタクト数およびレスポンス・タイプと関連付けるマップ・ファイルを作成します。
4. 作成したマップ・ファイルを Marketing Operations に追加します。
5. キャンペーン・テンプレートを作成し、「メトリック・データ・マッピング」ドロップダウン・リストからマップ・ファイルを選択します。

タスクの結果

コンタクトおよびレスポンスのデータが、そのテンプレートから作成されたすべてのプロジェクトのメトリックにマップされます。

メトリック・データ・マッピング・ファイル

データをマップするにはメトリックを定義します。

メトリック・データ・マッピング・ファイルは、コンテナー要素 `<metric-data-mapping>` および `</metric-data-mapping>` を使用する必要があります。

マッピング・ファイル内の次の行は、以下のようになります。

```
<datasource type="webservice">
  <service-url>CampaignServices</service-url>
</datasource>
```

実際のマッピングは、要素 `<metric-data-map>` および `</metric-data-map>` に含まれる必要があります。

メトリック

`<metric>` 要素を使用して、マッピング内のメトリックを定義します。 `<metric>` 要素に値はありませんが、子要素である `<data-map-column>` を含める必要があります。 `<metric>` 要素には、以下の属性があります。

属性	説明
id	メトリックの内部名
dimension-id	Campaign からの値を配置する列の番号。列には、左から右に向かって番号が付けられます。最初の列は、列 0 になります。

data-map-column

`<data-map-column>` 要素は、マッピングにおけるデータ・ソース (コンタクト数またはレスポンス・タイプのいずれか) を定義するために使用します。

`<data-map-column>` 要素は、コンタクト数またはこのレスポンス・タイプがマップされるメトリックを定義する、`<metric>` 要素内に存在する必要があります。

`<data-map-column>` 要素に値はありませんが、以下の属性があります。

属性	説明
id	メトリックにマップされるデータ・ソース。コンタクト数の場合は、 <code>contactcount</code> を使用します。レスポンス・タイプの場合は、 <code>responsecount_<ResponseTypeName></code> を使用します。
type	この値は、常に <code>number</code> でなければなりません。

データ・マッピング・ファイルの追加

テキスト・エディターまたは XML エディターを使用して、データ・マッピング・ファイルの作成または編集を行います。データ・マッピング・ファイルを用意したら、そのファイルを Marketing Operations に追加します。

このタスクについて

手順

1. 「設定」 > **Marketing Operations** 「設定」を選択します。
2. 「テンプレート構成」 > 「データ・マッピング」をクリックします。
3. 「データ・マッピングの追加」をクリックします。

「データ・マッピングのアップロード」ダイアログ・ボックスが開きます。

4. データ・マッピング・ファイルの名前を入力します。
5. データ・マッピングを定義する XML ファイルを表示します。
6. 「続行」をクリックします。

データ・マッピング・ファイルの編集

データ・マッピング・ファイルを更新するには、最初に XML ファイルを編集し、次にそのファイルを Marketing Operations に再ロードして戻します。

手順

1. データ・マッピング XML ファイルをテキスト・エディターで開き、変更を加えます。
2. 「設定」 > **Marketing Operations** 「設定」を選択します。
3. 「テンプレート構成」 > 「データ・マッピング」をクリックします。
4. 更新しているファイルの名前をクリックします。

「データ・マッピングの更新」ダイアログが開きます。

5. 「ファイル」を選択して、XML ファイルを参照します。
6. 「続行」をクリックします。

既存のファイルの上書きを求めるプロンプトが出されます。

7. 既存のファイルを新しいバージョンのファイルで上書きする場合は、「保存」をクリックします。

データ・マッピングの定義

「データ・マッピングの定義」ページでは、Marketing Operations のキャンペーン・プロジェクトと Campaign のキャンペーン、との間でデータをマップします。「テンプレート構成」ページで「データ・マッピング」リンクを使用して、データ・マッピングを構成します。

「データ・マッピングの定義」ページには、以下の列があります。

列	説明
名前	データ・マッピング・ファイルの名前
タイプ	「キャンペーン・メトリックのインポート (Campaign Metrics Import)」: Marketing Operations のプロジェクト・メトリックを Campaign のコンタクト数およびレスポンス数にマップします。 前のバージョンのマップ・ファイルがある場合は、「タイプ」列にこれら以外の値が表示されることがあります。

列	説明
使用者	データ・マップを使用するテンプレートのリスト。

注: Marketing Operations 内でマップ・ファイルを作成することはできません。テキスト・エディターまたは XML エディターを使用して、必要なマップ・ファイルを作成および編集してください。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレート

IBM Marketing Operations が IBM Campaign と統合されると、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートによって、キャンペーン・プロジェクトの作成がガイドされます。キャンペーン・プロジェクトでは、Marketing Operations の計画機能およびプロジェクト管理機能と、Campaign のキャンペーン開発機能が統合されます。

プロジェクト・テンプレートの作成時に、テンプレートがキャンペーン・プロジェクト・テンプレートであることを指定します。統合システムでは、すべての新規プロジェクト・テンプレートに「キャンペーン」タブが組み込まれています。ここで、テンプレートの「キャンペーン」タブの各オプションに入力します。それから、ターゲット・セル・スプレッドシートを指定する必要があります。Campaign のコンタクトおよびレスポンスのメトリックをインポートする場合は、メトリックのマップ・ファイルを指定する必要があります。

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートの作成

IBM Marketing Operations と IBM Campaign が統合されている場合、Marketing Operations 内で Campaign 情報にアクセスするためにキャンペーン・プロジェクトを使用します。

始める前に

キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成するには、その前に TCS フォームを作成する必要があります。カスタム・キャンペーン属性またはメトリック・マップ・ファイルをテンプレートに含める必要がある場合は、テンプレートの作成前にそれらを作成してください。

手順

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」で、「テンプレート構成」 > 「テンプレート」をクリックします。
3. 「プロジェクト・テンプレート」セクションで、「テンプレートの追加」をクリックします。
4. 「プロパティ」タブに入力して、「変更の保存」をクリックします。
5. 「キャンペーン」タブをクリックして、「キャンペーン・プロジェクト・テンプレート」チェック・ボックスを選択します。
6. 「キャンペーン」タブの残りのフィールドに入力して、「変更の保存」をクリックします。

TCS の承認が必要になるようにするには、「承認が必要」チェック・ボックスを選択します。 54 ページの『TCS 承認』を参照してください。

7. 残りのタブに入力し、それぞれ保存します。 これらのタブや、テンプレートの作成について詳しくは、「IBM Marketing Operations 管理者ガイド」でテンプレートの作成および編集に関する情報をお読みください。

「テンプレート」ページのプロジェクト・テンプレートのリストに、作成したテンプレートが表示されます。

8. そのテンプレートの行で「有効」をクリックし、ユーザーがプロジェクトを作成するときにそのテンプレートを使用できるようにします。

Campaign と通信するためのプロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブ

統合が有効になっている場合に、このタブを使用して IBM Marketing Operations から IBM Campaign への通信を構成します。

注: ユーザーがテンプレートからプロジェクトを作成した後は、キャンペーン・テンプレートではないものをキャンペーン・テンプレートに変更することも、その逆を行うこともできません。このタブの「キャンペーン・プロジェクト・テンプレート (Campaign Project template)」オプションは無効に設定されます。

キャンペーン・テンプレートを使用してプロジェクトを作成した後は、このタブで変更可能なオプションは「メトリック・データ・マッピング (Metric Data Mapping)」設定のみです。他のいずれかのオプションを変更するには、このテンプレートから作成されたすべてのプロジェクトをまず削除する必要があります。

「キャンペーン」タブには、以下の設定があります。

表 7. プロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブのフィールド

フィールド	説明
キャンペーン・プロジェクト・テンプレート	このテンプレートをキャンペーン・プロジェクト・テンプレートとし、その他の「キャンペーンの統合」フィールドを表示する場合に、このチェック・ボックスを選択します。
TCS フォーム	このテンプレートから作成されたプロジェクトに使用するターゲット・セル・スプレッドシートが含まれるフォームを選択します。ドロップダウン・リストには、TCS が含まれるすべての公開済みフォームが含まれています。
メトリック・データ・マッピング	IBM Campaign キャンペーンから IBM Marketing Operations プロジェクトにレポート作成の目的でメトリックを送信するためのデータ・マップを含んだ XML ファイル。
TCS フォーム表示名	「TCS」タブ上の選択したフォームの表示名。

表 7. プロジェクト・テンプレートの「キャンペーン」タブのフィールド (続き)

フィールド	説明
パーティション ID	<p>このテンプレートから作成されたキャンペーン・プロジェクトに対応するキャンペーンを作成する、IBM Campaign インスタンスのパーティションを識別します。</p> <p>デフォルト値は partition1 です。Campaign が単一のパーティションにインストールされている場合は、この値を使用します。Campaign が複数のパーティションにインストールされている場合、キャンペーンの作成に使用するパーティションを指定することができます。</p> <p>任意の Marketing Operations パーティションを指定することができます。指定するパーティションに対してアクセス権限があることと、統合が有効になっていることを確認してください。</p> <p>Campaign パーティションのセットアップについて詳しくは、「IBM Campaign インストール・ガイド」を参照してください。</p>
TCS タブを要求に表示	<p>プロジェクトを要求するためにテンプレートが使用された場合に TCS を表示するには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスがクリアされている場合、TCS はキャンペーン・プロジェクトにのみ表示され、要求には表示されません。</p>
承認が必要	<p>テンプレートで作成されたすべてのターゲット・セルで承認が必要とする場合、このチェック・ボックスを選択します。選択されていない場合、TCS グリッドには「承認」列も「すべて承認」や「すべて拒否」も表示されません。</p> <p>注: バージョン 8.2 へのアップグレードの一環として、すべてのアップグレード済みキャンペーン・テンプレートで「承認が必要」がクリアされます。</p> <p>詳しくは、54 ページの『TCS 承認』を参照してください。</p>
プロジェクトの属性をキャンペーン属性にコピー	<p>ユーザーが「完了」をクリックしてキャンペーン・プロジェクトを作成する際にプロジェクト情報をキャンペーンに自動的にコピーするには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスが選択されていない場合、ユーザーはキャンペーン・プロジェクト・インスタンスを作成する際に、「プロジェクトの属性をキャンペーン属性にコピー」リンクをクリックしてデータをコピーすることができます。デフォルトでは、このチェック・ボックスは選択されていません。</p>

Marketing Operations から Campaign への情報の自動的なコピー

プロジェクト情報をプロジェクトからキャンペーンに自動的にコピーするキャンペーン・プロジェクト・テンプレートを構成することができます。説明、開始日、および終了日を自動的にコピーできるため、これらの情報を 2 回入力する必要がありません。

このタスクについて

プロジェクト属性をキャンペーンに自動的にコピーするには、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを作成する際に、「プロジェクトの属性をキャンペーン属性にコピー」オプションを選択します。

「プロジェクトの属性をキャンペーン属性にコピー」オプションが選択されていない場合でも、オブジェクト・インスタンスでのワンクリックにより情報をコピーすることができます。このオプションを選択しないでテンプレートからインスタンスを作成する場合は、「プロジェクトの属性をキャンペーン属性にコピー」リンクでプロジェクト属性をキャンペーンにコピーします。

手順

1. キャンペーン・プロジェクトのインスタンスを作成します。
2. プロジェクト情報、すなわち説明、開始日と終了日、セキュリティー・ポリシーを入力します。
3. 「プロジェクトの属性をキャンペーン属性にコピー」がまだ選択されていない場合は、それをクリックします。
4. 「完了」または「次へ」をクリックします。

タスクの結果

キャンペーン属性には、対応するプロジェクト属性値が自動的に設定されます。

「Marketing Operations and Campaign 統合」レポート・パッケージ

Marketing Operations and Campaign Integration Report Package には、Campaign システム・テーブルと Marketing Operations システム・テーブルの両方から情報を照会および表示する、いくつかの IBM Cognos[®] レポートが含まれています。

このレポート・パッケージは、Campaign レポート・パッケージに依存しています。これは、統合レポートの「キャンペーン」セグメントが、Campaign レポート・パッケージのレポート・スキーマに依存しているためです。

統合レポート・パッケージのインストール前提条件

「IBM Marketing Operations and IBM Campaign 統合」レポート・パッケージをインストールする前に、以下の構成ステップを実行する必要があります。

- IBM Campaign 用および IBM Marketing Platform 用にレポートをセットアップする必要があります。「IBM インストールおよび構成ガイド」を参照してください。
- IBM Marketing Operations 用にレポートをセットアップする必要があります。「IBM Marketing Operations インストール・ガイド」の『レポートのインストール』を参照してください。
- Marketing Operations と Campaign の統合を完了する必要があります。

さらに、統合レポート・パッケージのサンプル・レポートを正常に動作させるために、以下の条件が満たされている必要があります。

- Campaign システムに標準カスタム・キャンペーン属性がロードされている必要があります。
- Marketing Operations システムにサンプル・テンプレート (特に重要なのが、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートのサンプル) がロードされている必要があります。また、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートでは、対応するキャンペーン・プロジェクト・メトリック・ファイルのサンプルを使用する必要があります。
- Marketing Operations システムで、財務管理モジュールが有効になっている必要があります。

これらの前提条件が満たされたら、インストール手順に進んでください。

ステップ 1: IBM Cognos システムでインストーラーを実行する

既存の IBM Cognos システムで IBM インストーラーを実行できます。

手順

1. Cognos Content Manager を実行する IBM Cognos システムに、Marketing Operations and Campaign 統合レポート・パッケージのインストーラーをダウンロードします。以前に他のレポート・パッケージのインストーラーをダウンロードしたディレクトリーと同じディレクトリーにダウンロードします。
2. IBM インストーラーを実行します。(このインストーラーにより、レポート・パッケージのサブインストーラーが起動されます。)
3. 最初の「製品」ウィンドウで、レポート・パッケージ・オプションが選択されていることを確認します。
4. 「Marketing Platform データベース接続」ウィンドウで、Marketing Platform システム・テーブルに接続する方法についての情報が正しいことを検証します。
5. レポート・パッケージ・インストーラーに引き継がれ、そのインストール・オプションが表示されたら、「IBM Cognos package for IBM [product]」オプションを選択します。このインストール・オプションによって、レポート・アーカイブとレポート・モデルが Cognos システムにコピーされます。このアーカイブを、後ほど手動でインポートします。

ステップ 2: レポート・フォルダーを Cognos Connection にインポートする

IBM アプリケーション・レポートは、レポート・パッケージ・インストーラーが Cognos システムにコピーした圧縮 (.zip) ファイル内にあります。この手順のガイドラインに従って、レポートのアーカイブ・ファイルを Cognos Connection にインポートします。

このタスクについて

手順

1. IBM\ReportsPackCampaignMarketingOperations\Cognos<version-number> ディレクトリーに移動します。
2. レポート・アーカイブの圧縮ファイル (IBM Reports for Marketing Operations and Campaign.zip) を、Cognos 配置アーカイブが保存されている

ディレクトリーにコピーします。分散 IBM Cognos 環境では、この場所は Content Manager システムになります。

デフォルト・ロケーションは、IBM Cognos インストール済み環境の下の配置ディレクトリーであり、そのディレクトリーは Cognos Content Manager と共にインストールされる Cognos Configuration ツールで指定されています。例えば、cognos¥deployment です。

3. IBM¥ReportsPackCampaignMarketingOperations¥Cognos<version-number>¥CampaignMarketingOperationsModel サブディレクトリーを見つけます。
4. サブディレクトリー全体を、Cognos Framework Manager を実行しているシステム上の、Framework Manager がアクセスできる任意の場所にコピーします。
5. Cognos Connection を開きます。
6. 「ようこそ」ページで、「**Cognos Content の管理 (Administer Cognos Content)**」をクリックします。

「ようこそ」ページがオフになっている場合、Cognos Connection ユーザー設定でオンに戻してください。

7. 「構成」タブをクリックします。
8. 「コンテンツ管理」を選択します。

9. ツールバーの「インポートの新規作成」ボタン  をクリックします。
10. 以下のガイドラインに従って、「インポートの新規作成ウィザード」をステップスルーしてください。
 - a. 前の手順でコピーしたレポート・アーカイブを選択します。
 - b. 「共有」フォルダー・コンテンツ・リストで、パッケージ自体 (青いフォルダー) も含めてすべてのオプションを選択します。
 - c. まだユーザーにパッケージおよびそのエントリーにアクセスさせない場合は、「インポート後に無効化」を選択します。レポートを IBM アプリケーション・ユーザーに対して使用可能にする前にテストする場合は、このステップを実行してください。

ステップ 3: レポート内の内部リンクを有効にする

IBM Marketing Software アプリケーション・レポートには標準リンクがあります。それらのリンクを適切に機能させるには、IBM Cognos Application Firewall を構成する必要があります。また、IBM Marketing Software アプリケーション・レポート用に Cognos データ・モデル内にリダイレクト URL を構成することも必要です。

このタスクについて

注: このステップは、eMessage レポートの場合は不要です。

IBM Marketing Software アプリケーション・レポート用に Cognos データ・モデル内にリダイレクト URL を構成するには、以下のステップを実行します。

手順

1. Cognos Framework Manager で、Framework Manager ディレクトリー構造にコピーした <製品名>Model サブディレクトリーを参照します。 .cpf ファイル (例: CampaignModel.cpf) を選択します。
2. 「パラメーター・マップ」 > 「環境」を選択します。
3. 「環境」を右クリックして、「定義を編集」を選択します。
4. 「リダイレクト URL」セクションで、「値」フィールドを選択します。サーバー名とポート番号を IBM Marketing Software スイートに合わせて編集し、残りの URL はそのままにしておきます。規則として、ホスト名にはドメイン・ネームを組み込みます。

例えば、Campaign の場合は次のようになります。

```
http://serverX.ABCompany.com:7001/Campaign/  
redirectToSummary.do?external=true&
```

例えば、Marketing Operations の場合は次のようになります。

```
http://serverX.ABCompany.com:7001/plan/callback.jsp?
```

5. 以下のステップを実行して、モデルを保存し、パッケージを公開します。
 - a. ナビゲーション・ツリーから、モデルの「パッケージ」ノードを展開します。
 - b. パッケージ・インスタンスを右クリックして、「パッケージを発行」を選択します。

ステップ 4: データ・ソース名を検証して公開する

モデルでレポートのデータ・ソースとして指定する名前は、Cognos Connection で作成したデータ・ソースの名前と一致していなければなりません。 Framework Manager から Cognos コンテンツ・ストアにモデルを公開する前に、データ・ソース名が一致することを確認する必要があります。

このタスクについて

デフォルトのデータ・ソース名を使用した場合、データ・ソース名は一致します。デフォルトのデータ・ソース名を使用しなかった場合、モデル内のデータ・ソース名を変更する必要があります。

モデル内のデータ・ソース名を確認および変更するには、以下のステップを実行します。

手順

1. Cognos Connection で、作成したデータ・ソースの名前を判別します。
2. Framework Manager で、「プロジェクトを開く」を選択します。
3. Framework Manager ディレクトリー構造にコピーした <製品名>Model サブディレクトリーを参照します。 .cpf ファイル (例: CampaignModel.cpf) を選択します。

4. 「データ・ソース」エントリーを展開し、データ・ソースの名前を調べます。それらが、Cognos Connection で命名したものに一致していることを確認します。
5. 名前が一致していない場合は、データ・ソース・インスタンスを選択し、「プロパティー」セクションで名前を編集します。変更を保存します。
6. パッケージを Cognos Content Store に公開します。

ステップ 5: IBM Cognos アプリケーションのファイアウォールを構成する

IBM Cognos Application Firewall は、IBM Cognos サーバーによって要求が処理される前に、それらの要求の分析および検証を行います。

このタスクについて

IBM Marketing Software 用に IBM Cognos Application Firewall を構成するには、IBM Marketing Software システムを有効なドメインまたはホストとして指定する必要があります。

IBM Marketing Software 用に IBM Cognos Application Firewall を構成するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「Cognos 構成 (Cognos Configuration)」ウィンドウで、「セキュリティー」> 「IBM Cognos Application Firewall」を選択します。
2. 「有効なドメインまたはホスト」プロパティー・ウィンドウに、Marketing Platform が稼働しているコンピューターの完全修飾コンピューター・ホスト名 (ドメインおよびポートを含む) を入力します。以下に例を示します。

```
serverXYZ.mycompany.com:7001
```

重要: 分散環境では、Cognos レポートを提供する IBM Marketing Software アプリケーション (Marketing Platform、Campaign、および Marketing Operations など) がインストールされているすべてのコンピューターで、このステップを実行する必要があります。

3. 構成を保存します。
4. IBM Cognos サービスを再始動します。

ステップ 6: アプリケーション・データベース用に IBM Cognos データ・ソースを作成する

IBM Cognos アプリケーションでは、IBM Marketing Software アプリケーション・レポートのデータのソースを識別する独自のデータ・ソースが必要です。

このタスクについて

IBM Marketing Software レポート・パッケージで提供されている IBM Cognos データ・モデルは、以下の表に示すデータ・ソース名を使用するように構成されています。

表 8. Cognos データ・ソース

IBM Marketing Software アプリケーション	Cognos データ・ソース名
Campaign	CampaignDS
eMessage	eMessageTrackDS
Interact	<ul style="list-style-type: none"> 設計時データベース: InteractDTDS 実行時データベース: InteractRTDS 学習データベース: InteractLearningDS ETL データベース: InteractETLDS
Marketing Operations	MarketingOperationsDS
Distributed Marketing	<ul style="list-style-type: none"> Distributed Marketing データベース: CollaborateDS 顧客データベース: CustomerDS Campaign データベース: CampaignDS

Cognos データ・ソースの構成について詳しくは、「IBM Cognos 管理およびセキュリティ・ガイド」および Cognos オンライン・ヘルプを参照してください。

IBM アプリケーション・データベース用に Cognos データ・ソースを作成するには、以下のガイドラインに従ってください。

手順

- Cognos Connection の「管理」セクションを使用します。
- データ・モデルの変更を防ぐために、上記の Cognos データ・ソースの表に示したデフォルトのデータ・ソース名を使用します。
- 選択するデータベース・タイプは、IBM アプリケーション・データベースのタイプと一致していなければなりません。Cognos の資料で、データベース固有のフィールドにデータを入力する方法を確認します。

注: Campaign と eMessage については、適切なデータベースは Campaign です。

- Cognos コンテンツ・ストアではなく、IBM Marketing Software アプリケーション・データベースを指定していることを確認してください。
- 「サインオン」セクションを構成する際に、「パスワード」オプションと「すべてのユーザー」グループで使用できるサインオンを作成」オプションを選択します。
- 「サインオン」セクションで、IBM Marketing Software アプリケーション・データベース・ユーザーのユーザー資格情報を指定します。
- Cognos データ・ソース・テーブルを調べ、構成しているレポートのデータ・モデルが必要とするすべてのデータ・ソースが作成されていることを確認します。例えば、Interact のレポート作成用データは 3 つのデータベース内に存在するため、データベースごとに別個の Cognos データ・ソースを作成する必要があります。
- Campaign システムに複数のパーティションがある場合、それぞれのパーティションに別個のデータ・ソースを作成します。例えば、複数のパーティションに

Campaign および eMessage が構成されている場合は、パーティションごとに別個の Campaign および eMessage のデータ・ソースを作成してください。

- 「テスト接続」機能を使用して、各データ・ソースが正しく構成されていることを確認します。

第 3 章 統合環境でのキャンペーンの作成

Marketing Operations と Campaign が統合された場合のキャンペーン作成のワークフローは、以下のタスクで構成されています。

このタスクについて

多くの組織で、マーケティング・キャンペーンの作成に必要なタスクは、複数のユーザーによって共有されます。

手順

1. 適切なテンプレートを使用して、キャンペーン・プロジェクトを作成します。

権限に応じて、プロジェクトを直接作成できる場合と、プロジェクトを要求し、その要求が受け入れられるまで待機する場合があります。

2. プロジェクト・タブで、欠落している情報があれば入力します。
3. プロジェクトに、リンクされたキャンペーンを作成します。

このステップが完了すると、「実装/計画」ボタン () が表示されて、キャンペーン・プロジェクトと、そのプロジェクトのリンクされたキャンペーンの間を移動できるようになります。

4. TCS に入力して、キャンペーンのコントロール・セルとターゲット・セル、およびターゲット・セルに割り当て済みのオファーを定義します。
5. TCS を Campaign に公開します。
6. キャンペーンのプロフローチャートを作成し、そのフローチャートで作成されたセルを、TCS で定義された適切なターゲット・セルおよびコントロール・セルにリンクします。
7. オプション: TCS 承認が必要な場合、フローチャートをテストし、セル数を生成します。
8. オプション: TCS 承認が必要な場合、確認のため、TCS 内からセル・ステータスを更新します。
9. オプション: TCS 承認が必要で、セルのすべての情報 (カウントなど) が適切であれば、TCS でセル (行) を承認します。
10. オプション: TCS 承認が必要な場合、フローチャートによって使用されているすべてのセルが承認されるまで、TCS の公開とセル・ステータスの更新のプロセスを繰り返します。
11. フローチャートで実行する、必要なすべての TCS 行の準備が整ったら、最後に TCS を公開します。
12. キャンペーンの実稼働フローチャート実行を開始します。

統合システムでのキャンペーン・プロジェクト

IBM Marketing Operations システムが IBM Campaign と統合されている場合、キャンペーン・プロジェクトを作成できます。

キャンペーン・プロジェクトは、マーケティング・キャンペーンの作成と Campaign によるそのキャンペーンの実行に関連した情報を収集します。

キャンペーン・プロジェクトには、プロジェクト (サブプロジェクトも含む) で使用できるあらゆる機能を含めることができます。さらにキャンペーン・プロジェクトには、ターゲット・セル・スプレッドシートを含む「TCS」タブや、「サマリー」タブの追加の「キャンペーン・サマリー」セクションを含めることもできます。

キャンペーン・プロジェクトでは、プロジェクトのキャンペーン、オファー、コンタクト履歴、およびレスポンス履歴のデータを Campaign と同期します。

プロジェクト・コードおよびキャンペーン・コード

キャンペーン・プロジェクトを作成する際には、プロジェクトの名前とコードを指定する必要があります。「リンクされたキャンペーンの作成」アイコンをクリックして IBM Campaign でキャンペーンを作成すると、キャンペーンの名前およびコードとして、同じ名前およびコードが使用されます。

コードは、IBM Marketing Operations および IBM Campaign において一意でなければなりません。コードを変更すると、システムが、プロジェクトの作成や保存の前に、コードの一意性を検査します。

プロジェクトの作成

プロジェクト・テンプレートから単一のプロジェクトを作成できます。管理者がプロジェクト・テンプレートをセットアップし、管理します。プロジェクトをコピーする、プロジェクトを複製する (99 個まで)、またはプロジェクト要求に応答することにより、プロジェクトを作成することもできます。

始める前に

プロジェクトを作成するときには、以下の動作に注意してください。

- プロジェクトを作成するには、適切なセキュリティー権限を保持している必要があります。
- プロジェクトの作成者は、そのプロジェクトの所有者になります。
- プロジェクトに他のチーム・メンバー (そのうちの一部は、プロジェクト所有者を兼任できます) を追加できます。

手順

1. 「操作」 > 「プロジェクト」を選択します。
2. 「プロジェクトの追加」 ()。
3. プロジェクトのテンプレートを選択します。

IBM Marketing Operations 管理者は、組織のテンプレートをセットアップします。IBM Marketing Operations および IBM Campaign の統合のいずれかの機能にアクセスするには、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートとして構成されたテンプレートを選択する必要があります。

4. 「続行」をクリックします。
5. 「プロジェクトの追加」ウィザードを使用して、プロジェクト・フィールドの値を提供します。
6. プロジェクトを保存すると、すべての必須フィールドに値が入力されているかどうかシステムによって検証されます。また、テンプレートからのデフォルト値が使用可能であれば、それらの値がオプション・フィールドに入力されます。プロジェクトを保存するには、以下のいずれかのオプションを使用します。
 - 「完了」をクリックします。新しいプロジェクトの「サマリー」タブが表示されます。
 - 「保存して複製」をクリックします。システムは、最初のプロジェクトを保存し、同じ情報を使用して別のプロジェクトを作成します。複製プロジェクトの「サマリー」タブが表示されます。複製プロジェクトおよびその他のフィールドのデフォルト名を必要に応じて編集し、そのプロジェクトを同様に保存します。
 - 任意のページで「保存してリストに戻る」をクリックします。「すべてのプロジェクトおよび要求」ページが表示されます。

タスクの結果

新たに作成したプロジェクトのステータスは、「開始前」になります。このプロジェクトを使用して情報を収集および共有するには、そのステータスを変更します。40 ページの『プロジェクトの開始』を参照してください。

プロジェクトのタブは、使用するテンプレートによって異なります。標準的なプロジェクトには、以下のようなタブがあります。

- サマリー
- スタッフ
- 戦略
- ワークフロー (タスクのスケジュール、マイルストーン、および承認)
- 追跡 (費用およびリソース)
- 正常性ステータス (プロジェクトのモニタリング)
- 添付ファイル

IBM Campaign が Marketing Operations と統合されると、キャンペーン・プロジェクトには「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブも組み込まれます。

「プロジェクトの追加」ウィザードの選択内容によっては、プロジェクト内のタブ・コンテンツに影響することがあります。管理者がワークフロー・テンプレート分岐を構成した場合は、フィールド・オプションに、その「ワークフロー」タブ用の特定のテンプレートが表示される可能性があります。例えば、チャンネルとしてダイレクト・メールと E メールどちらを選択するかに基づいて、テンプレートは異なるワークフローをプロジェクトに対して使用する可能性があります。

プロジェクトの開始

ステータスを変更してプロジェクトを開始します。「プロジェクトの開始」の遷移を選択します。

このタスクについて

自分が所有者であるプロジェクトは、どれでも開始することができます。

- 自分の作成したプロジェクト
- プロジェクト要求を受け入れたときに作成したプロジェクト
- 自分が所有者に含まれるプロジェクト

複数のプロジェクトを同時に開始することもできます。詳しくは、43 ページの『複数のプロジェクトまたは要求のステータスの変更』を参照してください。

手順

1. 開始するプロジェクトの「サマリー」タブに移動します。「操作」 > 「プロジェクト」を選択します。「アクション」アイコンをクリックして、「開始前」ステータスのプロジェクトが含まれるビュー（「自分のプロジェクト」など）を選択します。
2. 「ステータスの変更」をクリックし、メニューから「プロジェクトの開始」または「コメント付きでプロジェクトを開始」を選択します。
3. オプション: 「コメント付きでプロジェクトを開始」を選択した場合は、コメントを入力し、「続行」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクト・ステータスは「進行中」に変更されます。プロジェクトを開始すると、すべてのプロジェクト参加者は、それぞれに割り当てられたタスクで作業できます。

「キャンペーン・サマリー」セクション

プロジェクトの「サマリー」タブの「キャンペーン・サマリー」セクションでは、このプロジェクトのキャンペーンに関する基本情報を定義します。

フィールド	説明
キャンペーンの説明	キャンペーンの説明を入力します。
キャンペーン開始日	キャンペーンが開始される日付 手動で日付を入力することも、ドロップダウン矢印をクリックしてカレンダーを表示し、そこから日付を選択することもできます。フィールドに日付が指定されている場合、前方矢印または後方矢印をクリックして、日付を変更できます。 このフィールドが空の場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。

フィールド	説明
キャンペーン終了日	<p>キャンペーンが終了する日付</p> <p>手動で日付を入力することも、ドロップダウン矢印をクリックしてカレンダーを表示し、そこから日付を選択することもできます。フィールドに日付が指定されている場合、前方矢印または後方矢印をクリックして、日付を変更できます。</p> <p>このフィールドが空の場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。</p>
キャンペーンの目標	<p>キャンペーンの目標を入力します。</p>
キャンペーン・イニシアチブ	<p>キャンペーンが該当するイニシアチブを入力します。</p>
キャンペーンのセキュリティ・ポリシー	<p>Campaign に定義されたすべてのセキュリティ・ポリシーのドロップダウン・リストから、セキュリティ・ポリシーを選択します。</p> <p>いずれのポリシーも選択できます (自分の役割がないポリシーも選択可能)。キャンペーンを間違ったポリシーに配置した場合、アプリケーション・ユーザーに表示されません。</p> <p>セキュリティ・ポリシーが指定されていない場合は、リンクされたキャンペーンを作成できません。</p>

要求の作成

プロジェクトを作成するための権限を保持していない場合は、プロジェクト要求を作成することができます。

始める前に

プロジェクト要求を作成するときには、以下の動作に注意してください。

- 要求を作成した後、送信する必要があります。
- 適切なセキュリティ権限が必要です。
- 受信者が要求を受け入れた後は、その受信者がプロジェクトを所有することになります。(要求を送信したユーザーは要求者です。)

このタスクについて

要求を作成する際に、ユーザーの入力するウィザード内のページは、作成するプロジェクトのタイプに応じて異なります。標準的な要求には、以下のようなセクションがあります。

- 要求に関するサマリー情報
- 追跡情報
- 要求の一部である添付ファイル

手順

1. 「操作」 > 「プロジェクト」を選択します。

2. 「要求の追加」 () をクリックします。「要求の追加」ダイアログが開きます。
3. 要求に応じたテンプレートを選択します。

管理者が、組織が取り組むプロジェクトのタイプに対応したプロジェクト・テンプレートをセットアップします。IBM Marketing Operations-IBM Campaign 統合機能を使用するプロジェクトを要求するには、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートを選択する必要があります。

4. 「続行」をクリックします。
5. 「プロジェクトの追加」ウィザードを使用して、プロジェクト・フィールドの値を提供します。各要求で、要求の確認と書き直し、または承認を行う受信者を指定します。選択したテンプレートで変更が許可されている場合、以下も実行できます。
 - 受信者の追加。
 - 受信者の役割の変更。
 - 応答期間の変更。
 - 要求の受信および承認の順序付けをするシーケンス番号の変更。
 - 応答が必要であるかどうかの指定。
6. 要求を保存すると、すべての必須フィールドに値が入力されているかどうかシステムによって検証されます。また、テンプレートからのデフォルト値が使用可能であれば、それらの値がオプション・フィールドに入力されます。要求を保存するには、以下のいずれかのオプションを使用してください。
 - 「完了」をクリックします。
 - 「保存して複製」をクリックします。システムは、最初の要求を保存し、同じ情報を使用して別の要求を作成します。複製要求の「サマリー」タブが表示されます。複製用として提供されたデフォルト名およびその他のフィールドを必要に応じて編集し、その要求を同様に保存します。
 - 任意のページで「保存してリストに戻る」をクリックします。
7. 要求を最初のレビュー担当者に送信します。
 - 1 つの要求を作成した場合、「サマリー」タブで、「ステータスの変更」をクリックし、「要求の送信」を選択します。
 - 複数の要求を作成した場合、43 ページの『複数のプロジェクトまたは要求のステータスの変更』の説明に従ってそれらの要求を送信します。

最初のレビュー担当者がプロジェクト要求を承認した後は、要求を変更できません。最初のレビュー担当者がプロジェクトを承認した後に要求を変更する必要がある場合は、プロジェクト・ステータスをドラフトに変更し、変更を加えてからプロジェクトを再送信します。

タスクの結果

最後の必須受信者が要求を承認すると、プロジェクトが IBM Marketing Operations によって作成されます。

複数のプロジェクトまたは要求のステータスの変更

1 つ以上の要求またはプロジェクトのステータスを同時に変更することによって、効率を高めることができます。

このタスクについて

変更内容は、以下の前提条件を満たしている必要があります。そうでない場合は、潜在的な問題について説明する警告メッセージが表示されます。

- 選択する新しいステータスは、選択するすべてのアイテムに対して有効である必要があります。
- ステータスを変更するには、適切な権限が必要です。
- 要求を受け入れるまたは拒否するには、選択するすべてのアイテムに対する承認者である必要があります。

管理者は IBM Marketing Operations をセットアップして、プロセスのステータス変更時にそのプロセスの所有者およびメンバーにアラートを送信するようにすることができます。

手順

1. 「操作」 > 「プロジェクト」を選択します。
2. 「アクション」 () をクリックして、「すべてのプロジェクトおよび要求」を選択します。
3. 1 つ以上の項目を選択します。

注: 複数のページでアイテムを選択できます。ただし、システムは、新しいステータスを選択するときに表示しているページにのみステータス変更を適用しません。

4. 「ステータスの変更」をクリックし、選択したすべてのアイテムに適用するステータスをメニューから選択します。ステータス変更の大部分は、コメント付きでもコメントなしでも行えます。
 - コメントなしで新しいステータスを選択する場合は、新しいステータスをクリックするとすぐに Marketing Operations によってステータスが変更されます。
 - コメント付きで新しいステータスを選択した場合は、コメントを入力してから、「続行」をクリックして新しいステータスを適用します。

IBM Campaign オブジェクト名の中の特殊文字

特殊文字のいくつかは、IBM Campaign オブジェクト名としてサポートされていません。加えて、オブジェクトの中には特定の命名上の制約があるものもあります。

注: オブジェクト名をデータベースに渡す場合 (例えば、フローチャート名を含むユーザー変数を使用する場合)、特定のデータベースでサポートされている文字だけでオブジェクト名が構成されていることを確認する必要があります。そうしないと、データベース・エラーを受け取ります。

リンクされたキャンペーンの作成

プロジェクトのリンクされたキャンペーンを作成するには、事前にキャンペーンの開始日、キャンペーンの終了日、およびキャンペーンのセキュリティー・ポリシーをキャンペーン・プロジェクトに指定しておく必要があります。

始める前に

リンクされたキャンペーンを作成するには、Campaign で「キャンペーンの作成」権限を保持している必要があります。

このタスクについて

注: Marketing Operations プロジェクトにリンクされるすべてのキャンペーンは、ルート・フォルダーに作成されます。

「リンクされたキャンペーンの作成」アイコンをクリックしたユーザーは、自動的に Campaign でのそのキャンペーンの所有者になります。キャンペーンの所有権は変更できません。所有権は、Campaign でセットアップされたセキュリティー構成に応じて、特定の権限を認可することができます。

リンクされたキャンペーンを作成するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「操作」 > 「プロジェクト」を選択します。
2. キャンペーンを作成するプロジェクトをクリックします。プロジェクトの「サマリー」タブが表示されます。

3. 左のツールバーで「リンクされたキャンペーンの作成」アイコン () をクリックします。

タスクの結果

Campaign でキャンペーンが作成され、すべての共有情報 (TCS 内の情報を除く) が自動的に Campaign に公開されます。

キャンペーンが作成されると、「リンクされたキャンペーンの作成」アイコンが、

「キャンペーンの更新」アイコン () に切り替わります。「実装/計画

(Implementation/Planning)」ボタン () がプロジェクト・タブの右側に表示されます。このボタンをクリックするとキャンペーンにナビゲートし、もう一度クリックするとプロジェクトに戻ります。

リンクされたキャンペーンの更新

TCS の外部にあるフィールドの値を変更するときには、リンクされたキャンペーンを更新する必要があります。

始める前に

リンクされたキャンペーンを更新するには、Campaign で「キャンペーンの編集」の権限を保持している必要があります。

このタスクについて

Campaign にデータが渡される、TCS の外部にあるフィールドの値を変更する際、リンクされたキャンペーンを更新する必要があります。デフォルトでは、これらのフィールドはプロジェクトの「サマリー」タブの「キャンペーン・サマリー」セクションにあります。テンプレート作成者が、データが同様に Campaign に渡される別のタブに別のフィールドを作成している場合があります。判別できない場合は、テンプレート作成者に相談してください。

注: TCS のデータは、TCS を公開すると Campaign に送信されます。

リンクされたキャンペーンを更新するには、以下のステップを実行します。

手順

1. リンクされたキャンペーンのキャンペーン・プロジェクトを開きます。



2. 「サマリー」タブで、「キャンペーンの更新」アイコン () をクリックします。

ターゲット・セル・スプレッドシート

キャンペーンのすべてのターゲット・セルおよびコントロール・セルを定義し、ターゲット・セル・スプレッドシートにオファーを割り当てます。TCS には、キャンペーン全体のすべてのセル定義が含まれていなければなりません。

1 つのキャンペーン内の複数のフローチャートは TCS 内のセルにリンクできますが、それぞれの TCS 行がリンクできるのは 1 つのフローチャート・セルのみです。例えば、E メールを介して配信されるキャンペーンのウェブ 1 に定義されたセルと、コール・センターを介して配信されるウェブ 2 に定義された別のセルがあるとします。ウェブ 1 とウェブ 2 はそれぞれ異なるフローチャートに実装されるかもしれませんが、これらのセルは、両方のフローチャートでオーディエンス ID の同じグループを表す場合には、属性値 (例えば、セル・コード) を共有できます。

各行の「セル名」列および「コントロール・セルかどうか」列には値が必要で、値が指定されていない場合その行は保存されません。セル・コードを指定しなかった場合、TCS を公開するときに自動的に生成されます。コードを指定する場合は、Campaign で構成されるセル・コード形式の要件を満たすものでなければなりません。**allowDuplicateCellCodes** 構成パラメーターが FALSE に設定されている場合、セル・コードはフローチャート内で一意でなければなりません。TCS 内の行のセル・コードを削除して、TCS を再公開すると、Campaign がその行のセル・コードを作成します。そのセルとフローチャートとの間の既存のリンクはすべて存続します。

TCS は編集可能なグリッドなので、他の編集可能なグリッドに入力する場合と同じようにデータを入力できます。TCS 行は、コピーして貼り付けることができません。

TCS に加えた追加や変更は、TCS で「公開」をクリックするまでは Campaign に表示されません。

フローチャート・セルにリンクされている行を削除して、TCS を再公開した場合、その TCS の行にリンクされているすべてのフローチャート・セルがリンク解除されますが、データは失われません。そのセルがコンタクト・プロセスに対する入力である場合（「コール・リスト」、「メール・リスト」または「最適化」プロセス・ボックス）、そのフローチャート・セルを別の TCS 行にリンクするまでは、フローチャートを実稼働モードで実行できません。

関連タスク:

22 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシートの作成』

68 ページの『オファー統合の有効時にオファーおよびオファー・リストをセルに割り当てる』

64 ページの『統合システムでのオファーの作成』

66 ページの『オファー統合の有効化時にオファーを管理』

65 ページの『オファー統合の有効化時にオファー・テンプレートおよびオファー属性を管理』

49 ページの『TCS の公開』

編集モードのグリッド

編集モードのグリッドで作業すると、行の追加、行の削除、および既存のデータの編集を行うことができます。適切な権限を保持していれば、1 つの編集セッションでこれらすべてのタスクを実行できます。

権限

グリッドで作業するには、次の権限を保持している必要があります。サポートが必要な場合は管理者に問い合わせてください。

- 行を追加するには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表示」、「タブの編集」、「グリッドの編集」、および「グリッド行の追加」権限を保持していなければなりません。
- 行を編集するには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表」、「タブの表」、および「グリッドの編集」権限を保持していなければなりません。
- 行をコピーおよび貼り付けするには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表示」、「タブの編集」、および「グリッドの編集」権限を保持していなければなりません。
- 行を削除するには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表示」、「タブの編集」、「グリッド行の編集」、および「グリッド行の削除」権限を保持していなければなりません。

ロックされたデータ

システムは、あるユーザーが編集している行が別のユーザーによって編集されないようにします。キャンペーン・プロジェクトのターゲット・セル・スプレッドシートでは、個々のグリッド行ではなく、グリッド全体がロックされ、編集できなくなります。

改訂履歴

Marketing Operations は、グリッドの監査ログを保守します。監査ログには、ユーザーの詳細と、その保存時刻が示されます。この情報は、「分析」タブで使用可能です。

グリッド行の追加

編集セッションの際に、グリッド・データの 1 つ以上の行を追加することができます。

始める前に

行を追加するには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表示」、「タブの編集」、および「グリッド行の追加権限を保持していなければなりません。

現行のグリッド・ビューにすべての必要な列が表示されていなければなりません。そうでない場合、新規行を保存しようとしたときにエラーを受け取ります。

このタスクについて

以下の動作に注意してください。

- 行を追加した後で、作業を保存せずにページを移動しようとする、Marketing Operations から警告が出されます。
- 新しく追加された行のすべてのセルは、フォームの定義時の指定に応じて、空白か、デフォルト・データが入力された状態のいずれかになります。
- 行を追加する前に複数行を選択すると、新規行は選択したブロックの後に追加されます。
- 保存前に複数行を追加した場合、すべての新規行が検証にパスする必要があります。そうでない場合、新規行は保存されません。
- データの追加中に必要な列を非表示にすると、保存を試みた際にエラーを受け取ります。必要なすべての列を表示してから、データの追加を再試行してください。
- 新しいデータを保存するときには、新しく追加された行の配置が変わる可能性があります。行の順序は、グリッドのソート列に依存します。

グリッドに行を追加するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 更新するグリッドにナビゲートします。
2. 「編集」をクリックします。
3. 新規行の入る場所の上の行を選択し、「行の追加」をクリックします。

Marketing Operations は、選択した行の下に行を追加します。

注: 行を選択しないと、新規行は現行ページの終わりに追加されます。

4. 新規行の空のフィールドをクリックして、値を入力するか選択します。
5. 「保存」をクリックします。

グリッド行の編集

編集セッションの際に、グリッド・データの 1 つ以上の行を編集することができます。

始める前に

行を編集するには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表示」、「タブの編集」、および「グリッド行の編集」権限を保持していなければなりません。

このタスクについて

注: 別のユーザーによって使用されている行を編集することはできません。

グリッド行を編集するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 更新するグリッドにナビゲートします。
2. 「編集」をクリックして表示モードから編集モードに切り替えます。
3. 編集するデータが含まれるページにナビゲートして、値を変更するフィールド内をダブルクリックします。

選択したフィールドの特定のデータ型に応じたエディターが表示されます。例えば、日付フィールドを選択した場合、日付ピッカーが表示されます。

4. 「保存」をクリックして作業内容を保存し、表示モードに戻ります。

グリッド行の削除

編集セッションの際に、グリッド・データの 1 つ以上の行を削除することができます。

始める前に

行を削除するには、そのグリッドのタブに対する、「タブの表示」、「タブの編集」、および「グリッド行の削除」権限を保持していなければなりません。

このタスクについて

行を完全に削除する前に、システムから選択内容を確認するプロンプトが出されます。

注: 別のユーザーによって使用されている行を削除することはできません。

グリッド行を削除するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 削除するデータが収められているグリッドにナビゲートします。
2. 削除する 1 つ以上の行を選択し、削除アイコンをクリックします。

削除のマークが付けられた行を説明するメッセージが表示されます。

3. 削除するすべての行にマークが付けられるまで、ステップ 2 を繰り返します。
4. 「保存」をクリックして、削除のマークが付けられた行を削除します。 使用されていないその他の選択行は削除されません。

TCS の公開

TCS のセル定義およびオファーの割り当てを Campaign で使用可能にするには、その TCS を公開する必要があります。 TCS のデータに更新を加えたときには、必ずその TCS を再度公開して、それらの変更内容が Campaign に表示されるようにする必要があります。

始める前に

TCS を公開するには、Campaignで「キャンペーンのターゲット・セルの管理」権限を保持していなければなりません。

TCS を公開するには、その各行の「セル名」列および「コントロール・セルかどうか」列に値が指定されている必要があります。 TCS に非公開のデータが含まれている場合は、「公開」ボタンのラベルが赤色になっています。

このタスクについて

フローチャートでは、TCS が公開されるまではいずれのセルも TCS の行にリンクできません。 TCS を公開すると、Campaign のフローチャートでデータが使用可能になりますが、TCS 内のすべてのリンクされた行が承認されるまでは、フローチャートの実稼働実行を開始できません。 フローチャートのテスト実行はいつでも開始できます。

TCS のデータを変更した場合、その TCS を再度公開して Campaign で使用可能なデータを更新する必要があります。

TCS にまだ公開されていないデータが含まれている場合は、「公開」ボタンのラベルが赤色になっています。

TCS を公開するには、以下のステップを実行します。

手順

1. TCS が含まれるプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「公開」をクリックします。

関連概念:

- 45 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシート』

IBM Campaign のキャンペーンへのアクセス

Marketing Operations から、リンクされたキャンペーンにアクセスすることができます。

始める前に

「実装」ボタンは、プロジェクトのリンクされたキャンペーンが存在する場合にのみ表示されます。

このタスクについて

Campaign でキャンペーンにアクセスするには、以下のステップを実行します。

手順

1. Marketing Operations で対応するキャンペーン・プロジェクトを開きます。
2. 「分析」タブの右側の「実装」ボタン () をクリックします。

TCS でセル・ステータス・データを更新

セル・ステータスを更新すると、TCS 内のセルの実行結果が、Campaign から Marketing Operations にインポートされます。セル・ステータスを更新したときに、Marketing Operations は最新の実行結果をインポートします。前回の実行の結果は、消失して修復不能になります。

始める前に

1 つ以上のセルがフローチャートにリンクされている場合にのみ、セル・ステータスを更新できます。

セル・ステータスを更新するには、Campaign で「キャンペーン・ターゲット・セルの管理」の権限を保持している必要があります。

このタスクについて

セル・ステータスを更新すると、Marketing Operations は、以下の TCS の読み取り専用フィールドに、インポートした情報を配置します。

表 9. セル・ステータスの変更に応じて行われる更新

フィールド	説明
フローチャート	セルが使用されるフローチャートの名前。
最後の実行	このセルを含んだフローチャートが前回実行された日時。
実数	前回の実行時のセル内の一意のオーディエンス ID の数。
実行タイプ	このセルを含むフローチャートの前回の実行の実行タイプ (実稼働またはテストのフローチャート、ブランチ、またはプロセス・ボックス)。

TCS でセル・ステータス・データを更新するには、以下のステップを実行します。

手順

1. セル・カウント・データを更新するプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「セル・ステータスの取得」をクリックします。

フローチャートの管理

IBM Campaign のフローチャートでは、キャンペーン・ロジックを定義します。キャンペーンに含まれる各フローチャートは、お客様の顧客データベースやフラット・ファイルに保管されているデータに対して、一連のアクションを実行します。

フローチャートの作成中および作成後に、フローチャートに対してさまざまな管理アクティビティを実行できます。例えば、フローチャートのテストと実行、編集、表示などを実行できます。

注: フローチャートを処理するには、管理者から割り当てられた適切な権限が必要です。

詳細情報

フローチャート名に使用できる特殊文字には、制限があります。詳しくは、「IBM Campaign ユーザー・ガイド」の『付録 A』を参照してください。

フローチャートの作成

フローチャートをキャンペーンに追加するには、新規フローチャートを作成する方法と、既存のフローチャートをコピーする方法があります。

既存のフローチャートをコピーする場合、完成したフローチャートに必要な応じて変更を加えるため、時間の節約になります。

フローチャートの構築を容易にするために、事前に構成されたフローチャート・テンプレートを使用して、共通キャンペーン・ロジックやプロセス・ボックス・シーケンスを迅速に作成することができます。また、照会、テーブル・カタログ、トリガー、カスタム・マクロ、ユーザー変数、およびユーザー定義フィールドの定義などの、その他のオブジェクトを保存および再利用することもできます。

フローチャートの作成

フローチャートをマーケティング・キャンペーンに追加するには、以下の指示に従います。フローチャートは、キャンペーン・ロジックを定めるものです。

このタスクについて

各マーケティング・キャンペーンは、1 つ以上のフローチャートで構成されます。典型的なキャンペーンには、オファーを受け取る顧客および見込み客を選択するフローチャートと、レスポンスを追跡する別のフローチャートが含まれます。

例えば、コンタクト・フローチャートで、電話または E メールでコンタクトを取る一連の顧客を選択するとします。同じキャンペーン内の別のフローチャートでは、それらのオファーに対するレスポンスを追跡します。オファーが行われたら、レスポンス・フローチャートを使用してレスポンスを記録し、分析します。複数のフロ

ーチャートをキャンペーンに追加して、分析を行い、成果を高めることができます。より複雑なキャンペーンでは、多数のフローチャートを含めて複数のオファー・ストリームを管理したりできます。

各フローチャートは、プロセスで構成されます。キャンペーンに合わせたデータ操作、コンタクト・リストの作成、およびコンタクトとレスポンスのトラッキングの記録を行うようにプロセスを構成して、それらを接続します。フローチャート内で一連のプロセスを接続し、そのフローチャートを実行することで、キャンペーンを定義して実装します。

例えば、「コールリスト」プロセスに接続した「セグメント」プロセスに「選択」プロセスを接続して、フローチャートに含めることができます。お客様のデータベースから米国北西部に住むすべての顧客を選択するよう、「選択」プロセスを構成できます。「セグメント」プロセスでは、それらの顧客を「ゴールド」、「シルバー」、「ブロンズ」などの値層にセグメント化することができます。「コールリスト」プロセスでは、テレマーケティング・キャンペーンに合わせてオファーを指定し、コンタクト・リストを作成し、結果をコンタクト履歴に記録します。

注: 対話式フローチャートを作成している場合は、IBM Interact の資料を参照してください。

手順

1. キャンペーンまたはセッションを開きます。
2. 「フローチャートの追加」 をクリックします。

「フローチャートのプロパティ」 ページが開きます。

3. フローチャート名 (必須) と説明 (オプション) を入力します。「フローチャート・タイプ」については、Interact のライセンス交付を受けたユーザーである場合を除いて、「標準バッチ・フローチャート」が唯一のオプションになります。ライセンス交付を受けたバージョンの Interact をインストールしている場合は、「対話式フローチャート」も選択できます。

注: フローチャート名には、文字に関する特定の制限があります。

4. 「保存とフローチャートの編集」 をクリックします。

フローチャート・ウィンドウが開きます。ブランクのフローチャート・ワークスペースの左側にプロセス・パレットがあり、上部にツールバーがあります。

5. プロセス・ボックスをパレットからワークスペースにドラッグして、プロセスをフローチャートに追加します。

フローチャートは通常、処理対象の顧客またはその他の市場性のあるエンティティを定義する、1 つ以上の「選択」プロセスまたは「オーディエンス」プロセスから始まります。

6. ワークスペース内のプロセスをダブルクリックするか、またはプロセスを右クリックして「プロセス構成」を選択します。そして、構成ダイアログを使用して、プロセスの動作を指定します。
7. 構成したプロセスを接続し、キャンペーンのワークフローを確定します。
8. 作業中は「保存して続行」  を何度も使用してください。

9. 終了したら、「保存オプション」メニューを開き、「保存して終了」 を選択します。

フローチャートのテスト実行

データを出力しない場合や、テーブルやファイルを更新しない場合には、フローチャートまたはブランチでテスト実行を実施できます。

フローチャートまたはブランチのテスト実行を実施する際は、以下の点に留意してください。

- テスト実行および実稼働実行のいずれの場合も、完了時にトリガーが実行されません。
- プロセス、ブランチ、またはフローチャートのテスト時に、グローバル抑制が適用されます。
- オプション「詳細設定」 > 「テスト実行設定」 > 「出力を有効にする」は、テスト実行の際に出力を生成するかどうかを指定します。

エラーが出るごとにトラブルシューティングできるように、フローチャートの構築時にプロセスおよびブランチでテスト実行を実施してください。各フローチャートを実行またはテストする際は、その前に必ずそのフローチャートを保存してください。

プロセス、ブランチ、またはフローチャートのテスト実行

逐次、エラーをトラブルシューティングできるように、フローチャートを作成しながらテスト実行を行います。そして、フローチャート内にエラーがあれば、それらのレポートを参照することができます。

始める前に

編集したフローチャートは、テスト実行を行う前に必ず保存してください。テスト実行を行うときは、以下の点に留意してください。

- テスト実行では、テーブルもファイルも更新されません。ただし、テスト実行の完了時にトリガーが実行され、またグローバル抑制が適用されます。
- オプション「詳細設定」 > 「テスト実行設定」 > 「出力を有効にする」は、テスト実行の際に出力を生成するかどうかを指定します。
- データ操作プロセス (選択、マージ、抽出、オーディエンス) をテスト実行するときには、レコード数を制限できます。プロセス構成ダイアログの「セル・サイズの制限」タブにある「出力セル・サイズの上限指定」オプションを使用します。
- 前のテスト実行の結果は失われます。
- アップストリーム・プロセスからのデータが必要なプロセスの場合は、通常、アップストリーム・プロセスを先に実行して、ダウンストリーム・プロセスにデータを提供する必要があります。

手順

1. 「編集」モードでフローチャートを開きます。

2. プロセスまたはブランチをテスト実行するには、プロセスを右クリックし、「実行」メニュー  を開き、「選択したプロセスのテスト実行」または「選択したブランチのテスト実行」を選択します。
3. フローチャート全体をテスト実行するには、ツールバーの「実行」メニュー  を開き、「フローチャートのテスト実行」を選択します。

プロセス、ブランチ、またはフローチャートがテスト・モードで実行されます。正常に実行されたプロセスには、それぞれ緑色のチェック・マークが表示されず、エラーがある場合は、プロセスに赤い「X」が表示されます。
4. 実行を一時停止または停止する場合は、プロセス・ボックスを右クリックし、「実行」メニューから「一時停止」または「停止」を選択します。
5. ツールバーのいずれかの「保存」オプションを使用します。フローチャートのテスト実行が終了する前に「保存して終了」をクリックした場合、フローチャートの実行は続けられ、実行が終了した後にフローチャートは保存されます。フローチャートがまだ実行している間に誰かがそのフローチャートを再オープンした場合、そのフローチャートに加えられた変更はすべて失われます。このため、フローチャートは実行前に必ず保存するようにしてください。
6. 実行時のエラーの有無を調べるには、「分析」タブをクリックし、「Campaign フローチャート・ステータス・サマリー」レポートを表示します。

TCS 承認

IBM Marketing Operations と IBM Campaign の統合システムでは、キャンペーン・プロジェクト・テンプレートにおいて、実稼働モードによるフローチャートの実行前に (ターゲット・セル・スプレッドシート) TCS 承認を求めることができます。テンプレートで「承認が必要」を選択した場合は、TCS のすべての行が承認されてからでなければ、フローチャートを実稼働モードで実行できません。このフローチャートを実稼働モードで実行しており、このフローチャートに関連付けられている TCS の 1 つ以上の行が承認されていないと、Campaign はエラーを生成します。

「承認が必要」チェック・ボックスがオフになっているテンプレートを元にプロジェクトが作成されている場合、TCS のトップダウン・セルは承認を受ける必要はありません。この場合、TCS グリッドには「承認」列も「すべて承認」や「すべて拒否」も表示されません。キャンペーンに TCS 承認が必要ない場合は、「承認が必要」チェック・ボックスをオフにしておくことで時間が節約できます。

注: デフォルトでは、「承認が必要」はオフになっています。ただし Marketing Operations 8.5 にアップグレードすると、アップグレードされたキャンペーン・テンプレートではすべて「承認が必要」がオンになります。

インポートおよびエクスポート

「承認が必要」をオンにすると、プロジェクトのエクスポート時に「承認済みかどうか」列が含まれます。

「承認が必要」をオフにすると、「承認済みかどうか」列はエクスポートされず、一致する CSV ファイルだけがインポートされます。

個別の TCS 行の承認

TCS の各行を個別に承認することができます。行は、入力済みで内容が正しければ、TCS の他の行がまだ承認する準備が整っていない場合であってもすぐに承認できます。

このタスクについて

TCS の個々の行を承認するには、以下のステップを実行します。

手順

1. TCS が含まれるプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「編集」アイコンをクリックします。
4. 承認する行の「承認済みかどうか」列をダブルクリックします。
「はいいいえ」ドロップダウン・リストが表示されます。
5. 「はい」をクリックします。
6. TCS の編集が完了したら、「保存して終了」アイコンをクリックします。

TCS のすべての行の承認

テンプレートを「承認が必要」に設定する場合、実動モードでフローチャートを実行する前に、TCS のすべての行を承認する必要があります。

このタスクについて

TCS のすべての行を承認するには、以下のステップを実行します。

手順

1. TCS が含まれるプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「すべて承認」をクリックします。

すべての TCS 行に対する承認の拒否

TCS のすべての行に対する承認を拒否することができます。

このタスクについて

TCS のすべての行を拒否するには、以下のステップを実行します。

手順

1. TCS が含まれるプロジェクトを開きます。
2. 「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブをクリックします。
3. 「すべて拒否」をクリックします。

フローチャートのテストと実行

フローチャート全体、ブランチ、またはフローチャート内の個々のプロセスについて、テスト実行または実稼働実行を行うことができます。また、フローチャートを検証することもできます。最良の結果を得るためには、逐次、エラーをトラブルシューティングできるように、フローチャートを作成しながらテスト実行と検証を行います。テスト実行または実稼働実行を行う際、および検証を実行する際には、その前に必ず各フローチャートを保存してください。

重要: コンタクト・プロセスを含むフローチャートの場合は、フローチャートの実稼働実行 1 回につき、コンタクト履歴を 1 回のみ生成できます。同じ ID のリストから複数のコンタクトを生成するには、ID のリストをスナップショットで出力し、フローチャートを実行するごとにそのリストから読み取ります。

注: 管理特権を持つユーザーは、「モニター」ページにアクセスできます。このページには、実行中のすべてのフローチャートとそれらのステータスが表示されます。「モニター」ページには、フローチャートの実行を中断する、再開する、または停止する制御もあります。

フローチャートの実稼働実行

フローチャートの実稼働実行を行うと、生成されたデータがシステム・テーブルに保存されます。フローチャートを実行して保存したら、実行結果をレポートで参照することができます。

このタスクについて

実稼働実行は、保存、検証、およびテスト実行が終わった後に行ってください。実稼働実行では、履歴テーブルへの書き込みが行われます。

メール・リストやコール・リストなどのコンタクト・プロセスでは、コンタクト履歴にエントリーが書き込まれます。実稼働実行 1 回につき、コンタクト履歴を一度だけ生成できます。ある実稼働実行で既に実行したコンタクト・プロセスを再実行するには、まず、現在の実行で生成されたコンタクト履歴を削除する必要があります。同じ ID リストから複数のコンタクトを生成するには、ID リストのスナップショットを作成し、フローチャートを実行するたびにそのリストから読み取りを行います。

トリガーは、実稼働実行の完了時に実行されます。

実行を開始した後、管理特権を持つユーザーは、「モニター」ページにアクセスできます。このページには、実行中のすべてのフローチャートとそれらのステータスが表示されます。

手順

1. フローチャートを実行する前に保存します。
2. フローチャートを表示している場合は、「実行」メニュー  を開き、「実行」を選択します。

フローチャートを編集している場合は、「実行」メニュー  を開き、「フローチャートを保存して実行」を選択します。

3. プロセスまたはブランチを実行するには、プロセスを右クリックし、「実行」メニュー  を開き、「選択したプロセスの保存と実行」または「選択したブランチの保存と実行」を選択します。

注: フローチャートのプロセスのみまたはブランチのみを実行しても、フローチャートの実行 ID は増分されません。プロセスのみまたはブランチのみを実行するときに、コンタクト履歴レコードが存在する場合は、処理を進める前に実行履歴オプションを選択するように求めるプロンプトが出されます。「実行履歴オプション」ダイアログが表示されるのは、既に現在の実行 ID でコンタクト履歴を生成したブランチまたはプロセスを実行する場合に限られます。コンタクト履歴に情報を追加するか、この実行 ID の既存のコンタクト履歴を置き換えることができます。

4. フローチャート全体を実行するには、ツールバーの「実行」メニュー  を開き、「フローチャートを保存して実行」を選択します。

フローチャートが既に実行されている場合は、実行の確認を求められます。

プロセス、ブランチ、またはフローチャートが実稼働モードで実行されます。実行から得られるデータは、該当するシステム・テーブルに保存されます。正常に実行されたプロセスには、それぞれ緑色のチェック・マークが表示されます。エラーがある場合は、プロセスに赤い「X」が表示されます。

5. 実行を一時停止または停止する場合は、プロセス・ボックスを右クリックし、「実行」メニューを開き、「一時停止」または「停止」を選択します。
6. ツールバーのいずれかの「保存」オプションを使用します。フローチャートの実行が終了する前に「保存して終了」をクリックした場合、フローチャートの実行は続けられ、実行が終了した後にフローチャートは保存されます。フローチャートがまだ実行している間に誰かがそのフローチャートを再オープンした場合、そのフローチャートに加えられた変更はすべて失われます。

任意のレポートで実行結果を参照するには、フローチャートの実行後に保存する必要があります。フローチャートを保存すると、繰り返された実行の結果がすぐに使用可能になります。

7. 実行時のエラーの有無を調べるには、「分析」タブをクリックし、「Campaign フローチャート・ステータス・サマリー」レポートを表示します。

キャンペーンからのメトリックのインポート

キャンペーン・プロジェクトに「追跡」タブがある場合、テンプレート作成者が Campaign 内のコンタクトおよびレスポンスのメトリックと、Marketing Operations 内のメトリックをマップしています。メトリック・データをキャンペーン・プロジェクトにインポートできます。

始める前に

メトリックをインポートするには、Campaign で「キャンペーンの分析」権限を持っている必要があります。

このタスクについて

キャンペーンからメトリックをインポートするには、以下のステップを実行します。

手順

1. インポートするメトリックがあるキャンペーン・プロジェクトの「追跡」タブにナビゲートします。
2. 「値のインポート」をクリックします。

IBM Campaign メトリックが「値のインポート」ページに表示されます。インポートされる情報は、テンプレート作成者が定義したメトリックによって決まります。IBM Marketing Operations は、テーブルの下部に「外部ソースの最終リフレッシュ日時」として示される、インポートを実行した前回の日付を取得して表示します。

3. 「保存して終了」をクリックして、「追跡」タブのメトリックを更新し、「値のインポート」ページを閉じます。

次のタスク

必要に応じて、インポートしたメトリックを手動で更新します。

統合レポート

「Marketing Operations and Campaign 統合」レポート・パックがインストールされると、以下のレポートが使用可能になります。

表 10. 統合レポート・パックのレポート

レポート	説明
キャンペーン・セルの収支比較	各キャンペーンおよびキャンペーン内の各セルに関する、予算、収益、および ROI 情報を表示する Cognos レポート。このレポートには、Marketing Operations 財務管理モジュールが必要です。
チャンネル別のキャンペーン・オファ어의収支比較	各キャンペーン、キャンペーン内の各チャンネル、およびチャンネル内の各オファーに関する、予算、収益、および ROI 情報を表示する Cognos レポート。このレポートには、Marketing Operations 財務管理モジュールが必要です。
キャンペーン・オファ어의収支比較	各キャンペーンおよびキャンペーン内の各オファーに関する、予算、収益、および ROI 情報を表示する Cognos レポート。このレポートには、Marketing Operations 財務管理モジュールが必要です。

第 4 章 統合システムでのオファーおよびオファー・テンプレート

オファー統合が有効に設定された場合、Marketing Operations でオファーを作成し、それらのオファーを Campaign で使用できるように公開します。オファーを Campaign のセルに割り当てられる前にセットアップすることができます。オファーはテンプレートに基づきます。テンプレートも、Marketing Operations で作成されます。

オファー統合が有効に設定されると、以下のようになります。

- Campaign で以前に確立したオファーを、Marketing Operations にインポートできるようになります。
- ユーザーは、**Campaign** > 「オファー」ではなく、「操作」 > 「オファー」を選択して、オファー、オファー・リスト、およびオファー・フォルダーを作成および管理します。
- 「設定」 > 「**Campaign** 設定」 > 「テンプレートとカスタマイズ」オプションではなく、「設定」 > 「**Marketing Operations**設定」 > 「テンプレート構成」を選択して、オファー属性とオファー・テンプレートを作成および管理します。
- Marketing Operations を使用して、キャンペーン・プロジェクトのターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) フォームの出力セルに、オファーやオファー・リストを割り当てます。

オファー・ワークフロー機能

オファー統合が有効なシステムでは、Marketing Operations でオファーを処理するときに、いくつかの機能を使用できます。

オファー承認

オファーを作成または編集するときに、Marketing Operations にはオファー承認を指定するためのチェック・ボックスが表示されます。承認済みのオファーのみを Campaign に公開することができます。

オファー状態

オファーおよびオファー・フォルダーは、以下のような状態にすることができます。

オファー状態	定義
ドラフト	オファーを作成すると、新しく作成されたオファーの状態は「ドラフト」になっています。

オファー状態	定義
公開済み	「公開済み」状態は、オファー・インスタンスを Campaign にプッシュします。オファーを最初に Marketing Operations に公開するときに、システムは Campaign にオファーを作成します。以降の公開では、Campaign のオファー・インスタンスが更新されます。
書き直し	「公開済み」になったオファーは編集できません。公開済みのオファーを編集するため、ユーザーはオファーを書き直しする (オファーを「ドラフト」状態に変更する) ことができます。その後、オファーを編集し、変更したものを公開できるようになります。
回収する	「公開済み」のオファーのみを「回収する」にすることができます。オファーが回収されると、それ以降使用できなくなり、編集することも他の状態に変更することもできなくなります。

自動的に生成されるオファー・コード

Marketing Operations では、各オファーに割り当てられるオファー・コードをデフォルトのコード生成プログラムで生成できます。ユーザーは、オファー・コード生成プログラムを変更できません。オファー作成のウィザード・モードでは、「保存時に自動生成」チェック・ボックスで自動的にオファー・コードが作成されます。このチェック・ボックスを選択すると、Campaign によりオファー・コードが生成されます。チェック・ボックスが選択されていないと、有効なオファー・コードの検証が行われます。

IBM Digital Recommendations との統合およびオファー・テンプレート (オプション)

インストール済み環境で Digital Recommendations も使用する場合、特定のクライアントのカテゴリ ID と名前の値を動的に受信するように、Marketing Operations のオファー・テンプレートを構成できます。

この構成では、ユーザーは、オファーにカテゴリを含めるため、ID 番号を手動で入力せずに、Digital Recommendations から直接値が入力されるリストから選択します。詳しくは、17 ページの『IBM Digital Recommendations カテゴリを含める』を参照してください。

Marketing Operations でのオファー統合の有効化

オファー統合により、オファーおよびオファー・テンプレートを Campaign ではなく Marketing Operations で管理します。オファー統合は、Marketing Operations と Campaign を統合するときに有効にすることも、Campaign を使用してオファーを管理した後で有効にすることもできます。

このタスクについて

オファー統合は、キャンペーン統合とは別個のオプションです。キャンペーン統合が有効な場合、オファー統合も有効にすることができます。

Marketing Operations でオファー統合を有効にするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 7 ページの『統合された配置のプロパティ設定の構成』で説明したように、Marketing Operations および適切な Campaign パーティションのそれぞれで、統合が有効になっていることを確認します。
2. 「設定」 > 「構成」ページの「IBM Marketing Software」の下で、「IBM Marketing Platform」をクリックします。
3. 「設定の編集」をクリックし、「IBM Marketing Operations - オファー統合」を「True」に設定します。この設定により、Marketing Operations のオファー・ライフサイクル管理機能が有効になります。

システムによって、互換性の問題が検査されます。例えば、内部名が「creativeurl」である属性が Marketing Operations に存在する場合、オファー統合は失敗するので、その既存の属性の値は上書きされません。オファー統合を進めるには、その前に報告されたすべての問題を解決する必要があります。

4. Campaign インストール済み環境に複数のパーティションがある場合は、オファー統合を有効にする必要があるパーティションごとに、以下のプロパティを設定します。
 - a. 「IBM Marketing Software」 > 「キャンペーン」 > 「パーティション」 > 「パーティション[n]」 > 「サーバー」と展開して、「内部」をクリックします。
 - b. 「IBM Marketing Operations - オファー統合」を「はい」に設定します。
5. 必要に応じて、他のパーティションでステップ 4 を繰り返します。
6. オファー統合を有効にする前に Campaign でオファーを管理していた場合、これらのオファーのメタデータおよびデータを各パーティションの Marketing Operations にインポートします。

次のタスク

オファー統合を有効にした後、Marketing Operations を使用して、オファーを作成、編集、および管理します。これには、オファー統合を有効にする前に Campaign で作成したすべてのオファーも含まれます。

注: オファー統合を有効にした後に無効にすることは避けてください。

Campaign からオファーをインポート

オファー統合を有効にすると、オファーのメタデータおよびデータを Campaign から Marketing Operations にインポートできます。

始める前に

オファーをインポートする前に、Campaign オファーまたはオファー・リストで所有者、変更者、ユーザーとして参照されているすべてのユーザーに Marketing Operations 権限があることを確認します。

Campaign から正常にオファーのデータおよびメタデータをインポートするためには、Marketing Operations と Campaign の両方に対する管理権限がなければなりません。

このタスクについて

注: この手順は、オファー統合を有効にした直後、Marketing Operations でオファー関連のアイテムを作成する前に実行してください。

通常、Campaign からオファーを一度だけインポートします。インポート手順が失敗した場合は、エラーを確認して解決してから、インポート・プロセスを再開してください。正常にインポートされたオファーとオファー・リストには、Campaign でフラグが立てられて、複製したインポートが起きないようにされます。統合後、各ユーザーが Marketing Operations を使用してすべてのオファーのメタデータおよびデータを入力するので、この手順を繰り返す必要はありません。

注: オファー・インポート手順が正常に完了したことを確認してください。

手順

1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」を選択します。
2. 「その他のオプション」セクションで、「Campaign オファーのインポート」をクリックします。

「キャンペーン・オファーのインポート」ページには、インポート可能なオファー・テンプレート、オファー・フォルダー、オファー、およびオファー・リストが列挙されています。

3. 「続行」をクリックします。インポート・プロセスが開始され、ステータスが表示されます。他のページにナビゲートしたり「キャンペーン・オファーのインポート」ページに戻ったりして、ステータスを確認し結果を調べることができます。

注: Marketing Operations ユーザーがオファーの作業を開始する前に、オファー・インポート手順が正常に完了したことを確認してください。

4. 複数パーティションの Campaign 環境では、パーティションごとに上記の手順を繰り返します。他のパーティションのそれぞれに関連付けられたユーザー ID を使用して Marketing Operations にログインし、この手順を繰り返してください。

タスクの結果

インポート・プロセスにより、Campaign 内の既存のオファーのデータおよびメタデータが Marketing Operations に送られます。インポート・プロセスは、インポートした各アイテムのステータスを「公開済み」に設定します。

注: 回収済みのオファーおよびオファー・リストはインポートされません。回収済みのオファーのテンプレートは、ステータスを「無効」にしてインポートされます。

エラーまたは警告条件がないか確認するには、「キャンペーン・オファーのインポート」ページにナビゲートし、「現在の/最後に完了したインポート・ジョブのエラー」をクリックします。

表 11. Campaign からインポートされるオファー関連アイテム

インポートされるアイテム (順序どおり)	起こりうるエラーおよび解決策
1. オffer・テンプレート	<ul style="list-style-type: none"> • 参照されている標準属性が存在しない: その属性を Marketing Operations に追加してから、再インポートしてください。 • 予期しないエラー: ネットワークやデータベースの問題など、考えられる原因について詳細を確認し、再インポートしてください。
2. オffer・フォルダー	<ul style="list-style-type: none"> • 同じ名前のオffer・フォルダーが存在する: Campaign と Marketing Operations のいずれかで既存のオffer・フォルダーの名前を変更してから、再インポートしてください。 • 親オffer・フォルダーが存在しない: 親オffer・フォルダーのエラーを解決してから、再インポートしてください。 • 予期しないエラー: ネットワークやデータベースの問題など、考えられる原因について詳細を確認し、再インポートしてください。
3. オffer	<ul style="list-style-type: none"> • 参照されているオffer・テンプレートが存在しない: オffer・テンプレートのエラーを解決してから、再インポートしてください。 • 参照されているオffer・フォルダーが存在しない: オffer・フォルダーのエラーを解決してから、再インポートしてください。 • 参照されているユーザーが存在しない: Marketing Operations に対する特権を持つユーザーを準備し、再インポートしてください。 • 同じオffer・コードのオfferが存在する (警告): このオfferはインポートされます。 Marketing Operations でコードを固有値に変更することにより対処します。 • 予期しないエラー: ネットワークやデータベースの問題など、考えられる原因について詳細を確認し、再インポートしてください。 <p>注: オffer・データおよびメタデータを Campaign からインポートすると、インポートを開始したユーザーが Marketing Operations でオfferの所有者になります。</p>

表 11. Campaign からインポートされるオファー関連アイテム (続き)

インポートされるアイテム (順序どおり)	起こりうるエラーおよび解決策
4. オファー・リスト	<ul style="list-style-type: none"> • 1 つ以上のオファーがインポートされなかった: オファーごとにエラーを解決してから、再インポートしてください。 • 参照されているオファー・フォルダーが存在しない: オファー・フォルダーのエラーを解決してから、再インポートしてください。 • 参照されているユーザーが存在しない: Marketing Operations に対する特権を持つユーザーを準備し、再インポートしてください。 • 予期しないエラー: ネットワークやデータベースの問題など、考えられる原因について詳細を確認し、再インポートしてください。 <p>注: オファー・リスト・データおよびメタデータを Campaign からインポートすると、インポートを開始したユーザーが Marketing Operations でオファー・リストの所有者になります。</p>

統合システムでのオファーの作成

オファー統合が有効になると、Marketing Operations でオファー・テンプレートとオファーを作成し、そのオファーを Campaign で使用できるように公開します。

このタスクについて

以下のステップでは、オファー統合が有効になっている場合の、オファー作成のワークフローの概要を示します。Marketing Operations でこれらのステップを実行します。

手順

1. Campaign からインポートされたオファー属性およびオファー・テンプレート (あれば) を確認し、必要に応じて新しいオファー・テンプレートを設計します。
2. 新規オファー属性を追加するには、「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「テンプレート構成」 > 「共有属性」を選択します。
3. 必要な属性のフォームを作成するには、「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「テンプレート構成」 > 「フォーム」を選択します。
4. オファー・テンプレートを作成または編集するには、「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「テンプレート構成」 > 「テンプレート」を選択します。

注: リアルタイム・パーソナライゼーションで使用できるオファーを作成するためのテンプレートの設計方法について詳しくは、69 ページの『リアルタイム・パーソナライゼーションのための非表示ルールの定義』を参照してください。

5. 「タブ」タブをクリックして、フォームを選択します。
6. オファー・テンプレートを Campaign に公開します。
7. オファー・テンプレートに基づいてオファーを作成するには、「操作」 > 「オファー」を選択し、「オファーの追加」アイコンをクリックしてオファー・テンプレートを選択します。次に、ウィザードを使用してオファーを作成します。オファー・リストやオファー・フォルダーを作成することもできます。
8. オファーを承認して、Campaign に公開します。オファー・リストやオファー・フォルダーも Campaign に公開します。
9. キャンペーン・プロジェクト内のターゲット・セル・スプレッドシート・フォームの出力セルにオファーを追加します。

Campaign が Marketing Operations と統合されると、キャンペーン・プロジェクトには「ターゲット・セル・スプレッドシート」タブが組み込まれます。TCS 内の「割り当て済みのオファー」列をダブルクリックして、オファーを検索または参照します。

10. TCS を公開します。

タスクの結果

これで、オファーが Campaign で使用可能になりました。属性情報は、ユーザーがフローチャートのセルを TCS の行にリンクしたときに、自動的に Campaign に渡されます。

関連概念:

- 45 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシート』

オファー統合の有効化時にオファー・テンプレートおよびオファー属性を管理

統合システムでは、「キャンペーン設定」ではなく、「**Marketing Operations** 設定」からオファー・テンプレートにアクセスします。

このタスクについて

オファー・テンプレートおよびオファー属性の設計について詳しくは、「*IBM Campaign* 管理者ガイド」を参照してください。

統合環境でオファー・テンプレートおよびオファー属性を管理するには、以下のガイドラインに従います。

手順

- オファー・テンプレートを処理するには、「設定」 > 「**Marketing Operations** 設定」 > 「テンプレート構成」 > 「テンプレート」を選択します。「オファー・テンプレート」セクションのオプションを使用して、他のテンプレート操作を追加、有効化、編集、および実行します。

- 16 ページの『オファー・テンプレートの設計』を参照してください。

- オファー属性を処理するには、「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「テンプレート構成」 > 「共有属性」を選択します。「オファー属性」セクションのオプションを使用して、カスタム・オファー属性を作成したり編集したりします。

19 ページの『オファー属性』を参照してください。

次のタスク

これで、オファー・テンプレートで使用するためにオファー属性をフォームに追加できます。オファー属性をフォームに追加するときに、その動作を、「パラメータ化された」、「表示されない」、「または非表示の静的」として指定します。オファー・テンプレートのフォームには、ローカル・フォームまたは共有フォームとグリッド属性も含めることができますが、属性およびそれらによって収集されるデータは、Marketing Operations 内でのみ使用されます。オファー属性によって収集されたデータだけが、Campaign に公開されます。

関連概念:

45 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシート』

オファー統合の有効化時にオファーを管理

統合システムでは、「Campaign」メニューではなく、「操作」メニューからオファーにアクセスします。その後、未統合の Campaign システムの場合と同様の方法で操作を実行できます。

このタスクについて

Marketing Operations を使用して、オファーをオファー・フォルダーやオファー・リストに編成することもできます。

注: オファー・フォルダーを削除すると、そのフォルダーに含まれるすべてのサブフォルダー、オファー、およびオファー・リストも削除されます。

注: クラスター環境では、オファー・フォルダーに対する変更は単一のノードで行われます。オファー・フォルダーに対する変更がシステム再始動を必要とせずには他のノードに自動的に複製されるようにキャッシングを構成することについて詳しくは、「IBM Marketing Operations インストール・ガイド」を参照してください。

オファーについて詳しくは、「IBM Campaign ユーザー・ガイド」を参照してください。

統合環境でオファー、オファー・フォルダー、およびリストを管理するには、以下のガイドラインに従います。

手順

- オファーを作成するには、以下のステップを実行します。
 1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。

2. 「オファーの追加」アイコンをクリックし、オファー・テンプレートを選択します。
3. ウィザードを使用して、オファーを作成します。

オファーを作成したときに「承認済みかどうか」オプションを選択してオファーを承認することも、後ほど承認することもできます。オファーは常に「ドラフト」、「公開済み」、「書き直し」または「回収する」の4つの状態のいずれかです。オファーを作成したときの状態は、「ドラフト」です。

4. このオファーを Campaign で使用可能にするには、承認した上で公開する必要があります。
- オファーを承認するには、以下のステップを実行します。
 1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。
 2. リンクされたオファー名をクリックし、「承認済みかどうか」オプションを選択します。
 3. オファーを Campaign に公開できます。
 - オファーを公開するには、以下のステップを実行します。

注: 承認済みのオファーのみ公開することができます。

1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。
 2. オファーの横にあるボックスを選択します。
 3. 「ステータス」アイコンをクリックして、「選択したものを公開 (**Publish Selected**)」を選択します。このアクションで、オファー・インスタンスが Campaign にプッシュされます。公開されたオファーは、ターゲット・セル・スプレッドシートで使用するために選択することができます。
- オファーを編集するには、以下のステップを実行します。

注: 公開されたオファーは、「ドラフト」状態に変更するまで編集することはできません。

1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。
 2. 公開されたオファーの横にあるチェック・ボックスを選択します。
 3. 「ステータス」アイコンをクリックして、「選択したものを書き直し (**Re-draft Selected**)」を選択します。
 4. これで、オファーを編集し、変更したものを公開できるようになります。
- オファーを回収するには、以下のステップを実行します。

注: 公開済みのオファーのみを回収することができます。回収されたオファーは、それ以降使用できなくなり、編集することも他の状態に変更することもできなくなります。

1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。
 2. 公開されたオファーの横にあるチェック・ボックスを選択します。
 3. 「ステータス」アイコンをクリックして、「選択したものを回収 (**Retire Selected**)」を選択します。
- オファー・フォルダーを作成するには、以下のステップを実行します。
 1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。

2. 「フォルダーの追加」アイコンをクリックします。
 3. サブフォルダーを追加する場合は、リンクされたフォルダー名をクリックしてから、「フォルダーの追加」アイコンをクリックします。
 4. フォルダーを追加したら、そのフォルダーにオファーやオファー・リストを追加できます。フォルダーを Campaign で使用可能にするには、公開する必要があります。
- アイテムをフォルダーに移動するには、以下のステップを実行します。
 1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。
 2. 移動するオファー、オファー・リスト、またはフォルダーを見つけます。
 3. そのアイテムの横にあるチェック・ボックスを選択して、「選択したアイテムの移動」アイコンをクリックします。
 - オファー・フォルダーを公開するには、以下のステップを実行します。
 1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。
 2. フォルダーの横にあるボックスにチェック・マークを付け、「ステータス」アイコンをクリックします。
 3. 「選択したものを公開 (Publish Selected)」を選択します。このアクションで、オファー・フォルダーが Campaign にプッシュされます。ただし、この手順では、「ドラフト」状態のオファーやサブフォルダーは公開されません。これらのアイテムは、個別に公開する必要があります。
 - オファー・リストを作成するには、以下のステップを実行します。

注: Marketing Operations では、スマート・オファー・リストの照会ビルダーは編集モードでのみ表示されます。Campaign では、照会ビルダーは編集モードと表示モードの両方で表示されます。

1. 「操作」 > 「オファー」を選択します。
2. 「オファー・リストの追加」アイコンをクリックします。

注: オファー・リストを Campaign で使用可能にするには、公開する必要があります。

関連概念:

45 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシート』

オファー統合の有効時にオファーおよびオファー・リストをセルに割り当てる

統合環境では、Marketing Operations を使用して、ターゲット・セル・スプレッドシート (TCS) の出力セルにオファーおよびオファー・リストを割り当てます。TCS は、Marketing Operations の各キャンペーン・プロジェクトの一部です。

このタスクについて

注: オファーを検索したり参照したりするには、TCS が編集モードのときに行の「割り当て済みのオファー」列をダブルクリックします。

TCS を公開すると、フローチャート内のコンタクト・プロセス・ボックスでオファーを選択したときに、それらのオファーが自動的にセルに割り当てられます。このようにして、TCS セルはフローチャート・セルにリンクされます。この方式は「トップダウン」管理と呼ばれます。

ボトムアップ・ターゲット・セルを許可するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「設定」 > 「構成」 > 「**IBM Marketing Software**」 > 「キャンペーン」 > 「パーティション」 > 「パーティション[n]」 > 「サーバー」 > 「内部」にナビゲートします。
2. 「MO_UC_BottomUpTargetCells」を「はい」に設定します。

タスクの結果

注: TCS への追加や変更は、TCS で「公開」をクリックするまでは Campaign に表示されません。

関連概念:

45 ページの『ターゲット・セル・スプレッドシート』

リアルタイム・パーソナライゼーションのための非表示ルールの定義

Campaign と Marketing Operations の統合を利用すると、リアルタイム・パーソナライゼーションでオファーを提示できます。また、リアルタイム・パーソナライゼーションに該当しなくなったオファーを非表示にするルールを定義できます。

手順

1. 「設定」 > 「**Marketing Operations** 設定」 > 「テンプレート構成 (Template Configurations)」 > 「テンプレート」をクリックします。そして、「オファー・テンプレート」セクションから「テンプレートの追加」をクリックします。
2. 新規テンプレートを作成、またはテンプレートを編集するときは、オファー共有属性 InteractPointName および InteractPointID が公開されるフォームを関連付けます。
3. 「操作」 > 「オファー」をクリックします。
4. 「リアルタイム対話でのオファー非表示」セクションの各オプションに入力します。

さまざまなレスポンス・タイプのオファー承認、オファー拒否、およびオファー提示に基づいてオファーを非表示にするタイミングを選択できます。また、オファー属性に基づいてオファーを非表示にすることを選択したり、オファーを非表示にする日数を選択したりできます。

IBM 技術サポートに連絡する前に

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口から IBM 技術サポートに問い合わせることができます。問題を効率的に首尾よく確実に解決するために、以下のガイドラインを使用してください。

貴社の指定サポート窓口以外の方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

注: 技術サポートは API スクリプトの記述または作成は行いません。API 製品の実装に関する支援については、IBM 専門サービスにお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質についての簡単な説明
- 問題の発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手できる、製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、技術サポートではお客様の環境に関する情報をお尋ねすることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、ご使用のインストール済み IBM アプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択してください。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合は、アプリケーションのインストール・ディレクトリーにある `version.txt` ファイルを確認してください。

IBM 技術サポートのお問い合わせ先

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、「IBM Product Technical Support」の Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは、IBM カスタマー番号にリンク済みのアカウントにし

てください。お客様の IBM カスタマー番号とアカウントとの関連付けについて詳しくは、サポート・ポータルの「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については検証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的な事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明するこ

と、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』
<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21